令和6年

富士川町議会12月定例会会議録

令和6年12月6日 開会

令和6年12月13日 閉会

山梨県富士川町議会

令和 6 年

富士川町議会 12 月定例会

12 月 6 日

令和6年第4回富士川町議会定例会（1日目）

令和6年12月6日
午前10時00分開議
於 議 場

1 議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期決定
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 承認第12号 専決処分の承認を求めることについて（令和6年度富士川町一般会計補正予算（第5号））
- 日程第 5 議案第62号 富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について
- 日程第 6 議案第63号 富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 7 議案第64号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
- 日程第 8 議案第65号 富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 日程第 9 議案第66号 令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）
- 日程第10 議案第67号 令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第11 議案第68号 令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 日程第12 議案第69号 令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第13 議案第70号 令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第14 議案第71号 令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第15 議案第72号 令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第16 議案第73号 富士川町過疎地域持続的発展計画の変更について
- 日程第17 議案第74号 甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について
- 日程第18 議案第75号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う山梨県市町村総合事務組合規約の変更について
- 日程第19 議案第76号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について

2 出席議員は次のとおりである。(13名)

1番	宇田川 朱 恵	2番	神 田 雅 也
3番	依 田 誠 司	4番	深 澤 一 幸
5番	小 林 和 良	6番	秋 山 仁
7番	望 月 眞	8番	小 林 有紀子
9番	齊 藤 欽 也	10番	青 柳 光 仁
11番	鮫 田 洋 平	12番	井 上 光 三
13番	堀 内 春 美		

3 欠席議員

な し

4 会議録署名議員

3番	依 田 誠 司	4番	深 澤 一 幸
----	---------	----	---------

5 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 (19名)

町 長	望 月 利 樹	副 町 長	早 川 竜 一
教 育 長	古 屋 三 千 雄	会 計 管 理 者	河 原 恵 一
教 育 次 長	秋 山 忠	政 策 秘 書 課 長	中 込 浩 司
財 務 課 長	深 澤 千 秋	管 財 課 長	渡 辺 成 昭
税 務 課 長	望 月 聡	防 災 交 通 課 長	長 田 博 幸
町 民 生 活 課 長	原 田 和 佳	福 祉 保 健 課 長	遠 藤 悦 美
子 育 て 支 援 課 長	一 之 瀬 三 千	産 業 振 興 課 長	望 月 奈 緒 美
土 木 整 備 課 長	山 形 謙 一 郎	都 市 整 備 課 長	井 上 勝 彦
上 下 水 道 課 長	長 澤 康	教 育 総 務 課 長	小 林 恵
生 涯 学 習 課 長	井 上 誠		

6 職務のため出席した者の職氏名 (2名)

議会事務局長	依 田 正 紀
書 記	井 上 直 子

午前10時00分

○議長（堀内春美さん）

開会の前に、相互にあいさつを交わします。
起立願います。相互に礼。着席願います。

○議長（堀内春美さん）

富士川町告示第79号をもって招集されました、令和6年第4回富士川町議会定例会に、議員並びに町長をはじめ、執行部各位には、ご健勝にてご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまの出席議員は、13名であります。

定足数に達しておりますので、これから令和6年第4回富士川町議会定例会を開会します。
なお、本日は、富士川CATVが、町長の所信表明などを録画放送するため、議場内にカメラを設置し、撮影いたしますので、ご了承願います。

○議長（堀内春美さん）

これから、本日の会議を開きます。

第4回定例会に先立ちまして、一言ごあいさつを申し上げます。

師走に入り、令和6年も残りわずかとなりました。この時期としては、比較的暖かい日が続きましたが、これから本格的な冬が到来します。この時期は、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染者が増える傾向にあります。山梨県では、新型コロナウイルス感染症の新規感染者の報告数はわずかに増加しており、インフルエンザは流行期に入ったことが発表されました。これからの季節に感染者が増えることが見込まれるため、体調には十分気をつけていただきたいと思います。

さて、今年1年を振り返ってみますと、能登半島において1月の地震に加えて、9月には豪雨災害が発生し、全国各地でも台風や豪雨による土砂崩れや浸水被害が発生し、大きな被害をもたらしました。改めて、被害により亡くなられた方、被害を受けられた皆様方に、心からお悔みとお見舞い申し上げます。

本年は、新紙幣の発行や郵便料金の改定、また物価の高騰などや、それから衆議院の解散総選挙など、激動の一年でありました。新しく誕生した石破内閣においては、景気回復や外交問題、災害復興支援などの課題は山積していますが、私たちが安心して暮らせる社会づくりを期待するところであります。

一方で、スポーツ界では明るいニュースもあり、富士川町出身の中込陽翔さんが、東北楽天ゴールデンイーグルスにドラフト3位で指名され、富士川町初のプロ野球選手が誕生し、今後の活躍が期待されるところであります。

また、パリオリンピックでは、3人の山梨県の選手が目覚ましい活躍をしましてこの3名の方の努力と成果は、山梨県のスポーツ振興に大きな影響を与えることと思います。さらに、

海外では2年連続で3回目のMVPを受賞した大谷翔平選手は、日本の宝といっても過言ではないと思います。

本町に目を向けますと、15周年記念事業として様々な事業が展開され、特に山車巡行祭りでは、県内外からの多くの人で賑わい、大成功のうちに終了し、皆様で15周年をお祝いしたところでもあります。また来年3月に15周年の記念式典も開催されますが、さらにステップアップした町の成長が期待される場所でもあります。

議会におきましては、本年若者議会を開催し、若い世代へ町や議会に対する理解とまちづくりの提言を求めたところ、若者たちの町に対する真剣な考えを聞くことができ、大変良かったと思っております。また、町民に開かれた議会を目指すために、各地域へ出向いての議会懇談会の開催、こども議会の開催、こども条例の制定に向けての取組みを引き続き行ってまいります。私たち議員も、4年の任期は残り1年となりました。議会の質の向上、さらなる議会改革を進め、議員一丸となって、その役割を十分発揮し、取り組んでいかなければならないと考えております。今後も、町民の代表機関として監視機能、調査機能を強化し、主体的に諸課題に取り組むとともに、皆様とともにまちづくりをすすめてまいります。

来年の干支は、巳年です。巳は、神様の使いとして大切にされてきており、脱皮を繰り返すことから、不老不死のシンボルともされています。そのため、巳年は、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると考えられております。新しい年が、この文字のとおり、各地での災害が一日でも早い復旧と復興を願うとともに、活気に溢れた1年になることを、期待する場所でもあります。

今定例会では、一般質問の日には、傍聴席に入れない方のために、1階町民ギャラリーにテレビモニターを設けますので、ご利用ください。

今定例会は、条例改正、補正予算などについて、審議をお願いすることになります。議員各位におかれましては、健康に十分ご留意され、活発な議論をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

○議長（堀内春美さん）

日程第 1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により3番依田誠司君及び4番深澤一幸君を指名します。

○議長（堀内春美さん）

日程第 2 会期決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から13日までの8日間にしたいと思います。

これに、ご異議ありませんか。

（ 異議なし。の声 ）

異議なしと認めます。

したがって、会期は、本日から13日までの8日間と決定いたしました。

○議長（堀内春美さん）

日程第 3 諸般の報告

この際、議案の審議に先立ちまして、諸般の報告を行います。

議長から報告します。

本日の議事日程、説明員として出席通知のありました者の職、氏名などにつきましては、お手元に配布したとおりです。

なお、富士川町議会議員行政視察研修実施報告書については、お手元に配布したとおりですのでご了承願います。

今定例会までに受理した請願は、先に配布しました請願文書表のとおりです。請願は、所管のひとつくり常任委員会に付託しますので審査をお願いします。

本日は、提案説明に留め、質疑につきましては、10日の本会議で議事日程により、審議をお願いいたします。

以上で、諸般の報告を終わります。

ここで、町長からあいさつの申し出がありましたので、これを許します。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

本日ここに、令和6年12月富士川町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、公私ともに大変ご多忙の中、全員のご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日ごろから町政推進のため、格段のご理解とご尽力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

まずはじめに、わが町出身の中込陽翔選手が楽天イーグルスからドラフト3位指名を受け、正式にプロ野球選手として入団されたことを町民の皆様にご報告申し上げます。中込選手は、山梨学院大学を経て、四国アイランドリーグ・徳島インディゴソックスで研鑽を重ね、その努力が実を結び、ついにプロの世界への扉を開きました。この成果は、富士川町として初のプロ野球選手の誕生という快挙であり、町全体に大きな誇りと喜びをもたらしました。特に、次世代を担う子どもたちにとって、大きな夢と希望の光となることでしょう。私たち町民としても、彼の今後の活躍を全力で応援し、サポートしていきたいと考えています。

次に、9月に佐賀県で開催された国民スポーツ大会「SAGA2024」において、最勝寺在住の望月守男さんが、グラウンドゴルフ競技男子個人の部で優勝、さらに山梨県チームの一員として、小林在住の深澤健次さんと共に団体の部においても優勝し、見事2冠を達成されました。この偉業に対し、町民を代表して心よりお祝いを申し上げます。望月さん、深澤さんの成果は、日々のたゆまぬ努力の結晶であり、また地域の皆様の温かい支援があってこそ実現したものです。この輝かしい功績は、私たち町民全員に誇りをもたらし、スポーツを通じた地域の絆と活力を再認識させてくれるものです。

さらに、第77回山梨県体育祭り町村の部において、富士川町は見事、総合優勝を果たしました。新町発足以来、総合優勝13連覇という輝かしい成果を達成したことは、まさに「スポーツの町富士川町」としての誇りであり、町民一人ひとりの熱意と努力の結晶です。

今後も富士川町は、スポーツ振興により一層力を注いでいく所存であります。

次に、町制施行15周年記念イベントについてであります。本町は、明年3月8日をもって町制施行15年という大きな節目を迎えます。この記念すべき年を祝い、今年度を通して多くの記念事業を実施してきました。その一環として、10月27日に開催されました「15周年記念山車巡行祭り」は、5年ぶりの開催ながら、多くの皆様のご支援とご協力をいただき、盛大に開催することができました。祭りでは、神輿や万灯講を先導に、4台の美しい山車が県道42号をおよそ1.5キロメートルにわたり巡行し、また、今年度で閉校を迎える鯉沢中学校の生徒たちによる「鯉沢ばやし」の演奏や、増穂中学校のブラスバンド部の力強い演奏が祭りに華を添えてくれました。このように、地域の伝統文化と未来を担う若者たちの力が一体となった祭りは、悠久の歴史と追憶に浸る、非常に感慨深いものになりました。さらに、10月8日から31日までの期間中、歴史文化館「塩の華」において企画展「山車の歴史と未来」を開催いたしました。この展示には450名の方がご来館され、山車の車輪や当時の写真、法被などを通じて、地域の歴史と文化に触れていただく機会となりました。これらの取り組みを通じ、私たちは地域の歴史や伝統を改めて見つめ直すとともに、この宝を次世代へ継承する重要性を実感しているところであります。これからも地域の皆様とともに歩みを進めながら、文化と伝統を大切にしつつ、本町のさらなる発展に向けて尽力していきます。

次に、11月10日に開催された「甲州富士川まつり」では、地域の特産品を活かした販売コーナーや、パトカーや消防車、自衛隊車両などの働く車の乗車体験など多彩な催しが行われ、会場は多くの来場者で賑わいました。特に今回2回目の開催となる「ティラノサウルスレース」では、昨年以上の参加者が集まり、町民の皆様や来訪者の笑顔あふれるひとときとなりました。また、今月1日に開催された「ダイヤモンド富士の見える町ゆずの里ロゲイニング in 富士川町」では、県内外から多くの方にご参加いただき、富士川町の秋の景色を存分に楽しんでいただけたことを大変嬉しく思っています。このように、町制施行15周年記念事業を通じて、様々な人々との交流が育まれると同時に、私たちの町の自然の美しさや地域資源の魅力を発信する場となりました。私たちはこれらの活動を契機に、さらなる地域の活性化に向けた取り組みを進めてまいります。

次に、一般社団法人公民連携推進機構との連携事業についてご報告いたします。町では、これまでAIロボットによる庁舎案内など先進的なDX事業を積極的に取り入れてきました。この度、新たな試みとして、「デジタル住民票」の販売を開始いたします。この事業では、本町の特色ある写真スポットで撮影された有名コスプレイヤーの画像をデジタル住民票として販売し、その収益の一部が町への寄付金として還元されます。これにより、町の財源強化に寄与するだけでなく、本町の観光地が「聖地巡礼」として注目されることを目指しています。この取り組みは、町にとって経費負担ゼロの「ふじかわゼロプロジェクト」として実現可能となり、公民連携の力を生かして、地域の魅力を最大限に発信する好例となります。今後も町と民間事業者との連携をさらに加速させ、「ふじかわゼロプロジェクト」を推進してまいります。さらに、AIやデジタル技術を積極的に活用し、行政サービスの効率化と住民サービスの向上を図っていく所存であります。

次に地産地消の取り組みについてです。11月22日町内の全小中学校において、富士川町産の卵、米、野菜などの食材を中心とした学校給食を提供いたしました。この取り組みは、地域農業の振興に寄与するとともに、子どもたちに地元の食材の魅力を直接体験してもらう貴重な機会となりました。地産地消を推進することで、地域経済を活性化させるだけでなく、町内における食料自給率向上の機運を高めると同時に、子どもたちが地元の魅力を再発見し、地域の豊かさを感じることができる契機となります。これからも様々な形で地産地消の取り組みを進めてまいりたいと考えています。

次に、令和5年度における企業版ふるさと納税の寄附実績についてご報告いたします。本町は、都道府県を含む全国自治体の中で、第36位という高い評価を受ける結果となりました。この成果は、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議から発表されたものであり、多くの企業の皆様からの温かい支援のたまものです。ここで改めて感謝を申し上げます。今後も町の資源や魅力を最大限に生かしながら、企業の支援を呼び込む取り組みを、さらに強化していきます。そして、町民の皆様とともに成長し続ける町づくりを進めていきます。

次に、7大事業の起債の償還についてです。平成28年度より実施されてきた、いきいきスポーツ公園整備事業や庁舎整備事業など7大事業に伴う起債の償還が、令和7年度から本格的に始まります。町ではこれを見据え、持続可能な財政運営を最優先課題に位置づけ、改めて事業規模の抑制や未執行业の執行時期の見直しを行い、計画的な事業運営を徹底し、財政の健全化を図ってまいりました。その結果、町全体の借入金の返済額は減少傾向となるなど、財政健全化への取り組みの成果が、着実にあらわれてきております。しかしながら、現在の財政状況を維持し、さらに健全な財政基盤を築くためには、今後も慎重かつ的確な財政運営が必要不可欠です。住民の皆様が安心して暮らせる未来を築くため、引き続き事業の優先順位と執行時期を見極めると同時に、国・県の補助金や民間の力を積極的に活用し、持続可能な財政運営と財政健全化に全力で取り組んでいきます。

それでは、本定例会に提出いたしました案件のうち、主なものにつきまして、その概要をご説明申し上げますとともに、主要な事業への取り組み状況を申し上げます。

昨年度策定した「富士川リバーサイドパーク構想」に基づき、富士川河川敷地内に、ヘリポートの設置を進めてまいりました。こうした中、9月に国からおよそ1万4500平方メートルの敷地について、河川占用の許可が下り、さらに10月には国から場外離着場としての許可も得たところであります。こうした進展を受け、今後、公共用ヘリポートとしての整備を進めていくため、本年度中に試験運行を実施し、騒音調査等を行ってまいります。また、全国には既に12か所の公共用ヘリポートが設置されておりますが、山梨県には未だ公共用ヘリポートが設置されておられません。本ヘリポートを、山梨県における空の拠点となる初の公共用ヘリポートとして位置づけ、峡南エリアや富士山周辺などの観光振興や、地方空港や主要都市などとの連携も図り、地域間の新たな交通手段としても活用できるよう計画を進めてまいります。

次に、やまなし県央連携中枢都市圏への参画についてです。これは、甲府市を中心に国中地域の9市1町が連携協約を締結し、圏域全体の経済成長のけん引、高次都市機能の集積強化及び圏域全体の生活関連機能サービスの向上に関する取り組みを、相互に連携して

取り組むものです。町でも観光の活性化により、交流人口の増加を図るには、近隣市町との連携が必要不可欠となります。これまでのような、峡南地域5町との連携だけではなく、甲府市を中心とした中枢都市圏に参画することで、地域ブランドの価値向上や地域産業の振興など、様々な波及効果が期待できるものと考えております。今回、市川三郷町も同時に参画することで手続きを進めており、参画後は9市3町で構成され、圏域人口は全体で62万人を超え、県内人口のおよそ75%を超える大きな連携圏域となります。また、これまで県と町で取り組んできた、道の駅富士川を活用した中部横断自動車道沿線地域の活性化を図る事業との連携を図ることにより、大きな相乗効果が期待されます。このように、近隣市町との連携を深め、圏域全体の活性化を図ってまいりたいと考えています。こうしたことから、加盟市町と相互に連携を図る協議を行うため、地方自治法第252条の2第3項の規定による議会の議決をいただくため、本定例会に連携協約締結についての案件を提出しております。

次に、富士川町物価高騰対策・子育て世帯応援臨時給付金支援事業についてです。山梨県が子育て世帯を対象とした物価高騰対策等を市町村において実施できるよう制定した「山梨県物価高騰対策・子育て世帯応援臨時交付金交付要綱」に基づき、町では、保育所等を利用する児童を対象に、副食費2か月相当分として、県の交付金に町が上乗せし、今回、町独自の施策として、児童1人当たり1万円を支給することといたしました。事業実施にあたり、要綱の制定、所要の額を補正予算として計上し、今定例会に提案したところであります。今後も子育て世帯のニーズに応えられるよう、安心して子育てができる環境づくりを推進していきたいと考えております。

次に、宅配ボックス購入費補助金の受付開始についてです。県と町では、消費者の行動変容を促進し、宅配の再配達削減による事業者の負担や環境負荷の軽減を図るとともに、町民の日常生活の利便性確保につなげるため、戸建て住宅や集合住宅へ設置する宅配ボックスの購入費用の一部を補助しております。10月1日から、補助金交付申請の受付を開始したところ、11月末現在、30件の申請がありました。この補助金の趣旨をご理解いただき、さらに多くの方にご利用いただきたいと考えております。

次にバレルサウナの供用開始についてです。まほらの湯・かじかの湯リニューアル工事の一環として、11月20日にまほらの湯にバレルサウナを設置いたしました。バレルサウナは、木材の香りに包まれながら、温かい蒸気の中で心身ともにリフレッシュすることができるため、利用者にとって癒しの時間を提供する施設です。バレルサウナの設置により、地域住民や観光客の皆様にとってより快適で充実した施設となることを期待しております。

次に、町内二つの組合の産業振興及び地域振興部門における表彰受賞についてです。まずは、峡南森林組合の「ふれあいの森林づくり表彰国土緑化推進機構会長賞」の受賞についてです。同組合におかれましては、森林を活用し、交流事業を実施するなど、ふれあいの場となる森づくりの推進に寄与されたご功績が認められ、受賞の栄に浴されました。本町においては、町内森林の適切な整備促進にご貢献いただくとともに、森林環境譲与税の有効活用に資する取り組みの推進にも携わっていただいております。また8月には「富士川中学校新校舎建設に伴う町有林活用に関する協定」を同組合と締結させていただいており、町有林を活用した自然体験活動の推進や、地元産材の利用促進にご尽力いただいております。

次に、日出づる里活性化組合の「山日YBS農業賞チャレンジ賞」の受賞についてです。同組合におかれましては、古くから地域に受け継がれてきた「穂積のゆず」を守りながら、地域の振興にご尽力いただいております。ゆず生産の作業性を改善させるため、ゆずの木を低く仕立てる手法を確立したり、ゆずを使った多彩な加工品開発を手がけるなど、積極的な運営により、地域の発展に寄与されています。また、町が推進する農村RMO形成推進事業においては、地域運営の中核を担う団体として協議会の中心的な役割を担っていただき、ご活躍いただいております。このように、本町の発展に大きくご貢献いただいている二つの組合がそれぞれのご功績により、受賞の栄に浴されましたことは、本町のイメージアップにつながる活躍であり、町といたしましても、大変喜ばしく、心からお祝い申し上げる次第であります。今後も事業推進における各組合とのさらなる連携強化を図りながら、本町の産業振興及び地域振興の政策推進に努めていきます。

次に、町民体育館建設基本計画検討委員会での審議についてであります。去る、10月22日に富士川町民体育館建設基本計画検討委員会を開催し、今後のスケジュール及び建設候補地の選定業務に向けた協議、並びに望ましい規模などについての協議を行ったところであります。委員からは、「町民の理解を得るには、取り壊しをした町民体育館と同規模が望ましい」や「ある程度の観客席が欲しい。」「防災面で望ましい場所を候補地として選定していただきたい」などの前向きな意見をいただいたところであります。今後、候補地選定業務を委託し、候補地が選定されたところで再度委員会を開催し、一步一步進めていきたいと考えております。

以上、今定例会に提出いたしました主な案件と、主要な取り組みについて述べさせていただきました。

今定例会には、専決処分承認案件1件、条例改正案件4件、補正予算案件7件、計画変更案件1件、連携協約案件1件、組合事務変更案件2件、合わせて16件の議案を提出しております。提案理由につきましては、議案ごとに申し上げることとしておりますが、何卒ご審議のうえ、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長のあいさつを終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第 4 承認 第12号 専決処分の承認を求めることについて（令和6年度富士川町
一般会計補正予算（第5号））

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、承認第12号について、補足説明を求めます。

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

それでは、承認第12号の補足説明をさせていただきます。タブレット3ページをご覧ください。

（以下、専決処分書・令和6年度富士川町一般会計補正予算の朗読）

第1表の歳入歳出予算補正につきましては、事項別明細書により説明させていただきます。タブレット9ページの次でございますが、タブレットすいません9ページでございます。

（以下、令和6年度富士川町一般会計補正予算（第5号）事項別明細書朗読説明）
次のページからは人件費に異動がございましたので給与費明細書を添付してございます。ご参照ください。

以上で、承認第12号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。

○議長（堀内春美さん）

日程第 5 議案 第62号 富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について

日程第 6 議案 第63号 富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

日程第 7 議案 第64号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

日程第 8 議案 第65号 富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について

以上の4議案は、条例改正案件でありますので、一括して議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第62号から第65号までについて、補足説明を求めます。

まず、議案第62号及び第63号について、補足説明を求めます。

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

それでは、議案第62号及び議案第63号の補足説明をさせていただきます。はじめに、議案第62号の富士川町職員給与条例の一部を改正する条例についての補足説明となります。タブレット24ページをお願いいたします。これは、本年10月16日に山梨県人事委員会から、地方公務員法第8条、第14条及び第26条の規定に基づく報告及び勧告がございま

したので、同法に基づきまして、本町においても関係する条例を改正するものでございます。改正の内容につきましては、月例給においては、4月分における民間の給与を、支給実績と、地方公務員である職員の月利益を比較し、行政職給料表を改定するもので、今回は初任給をはじめ、若年層に重点を置いて給料月額を引き上げるものでございます。特別給でございませぬ。期末手当及び勤勉手当は、昨年8月から本年7月までの1年間における民間支給実績を比較したことを踏まえ、令和6年度12月期の支給割合を0.05月引き上げるとともに、引き上げ後の年間の引き上げ額を平準化するため、令和7年度6月期以降の支給割合を0.05月引き下げるものでございます。また、本町には看護保健職給料表がございませんので関係する別表等を削除しているものでございます。それでは詳細につきましては、新旧対照表についてご説明させていただきます。タブレット29ページをご覧ください。

はじめに富士川町職員給与条例の改正第1条関係でございませぬ。こちらは本年12月期に支給する期末手当及び勤勉手当の支給月数の改正でございませぬ。表の下段でございませぬが、期末手当に関わる第17条第2項でございませぬ。100分の122.5を100分の127.5に、また特定幹部職員、いわゆる6級の課長職でございませぬが100分の102.5を100分の107.5に改めるものでございませぬ。次のページ、30ページをお願いいたします。上段第3号でございませぬが、定年前再任用短時間勤務職員についてでございませぬ。100分の122.5を100分の127.5に、100分の68.75を100分の71.25に、100分の102.5を100分の107.5分に100分の58.75を100分の61.25に改めるものでございませぬ。

次に勤勉手当に係る第17条の4第2項第1号でございませぬ。こちら100分の102.5を100分の107.5に、また特定幹部職員にあつては100分の122.5を100分の127.5に改めるものでございませぬ。第2号でございませぬが、定年前再任用短時間勤務職員についてでございませぬして、100分の48.75を100分の51.25に、特定幹部職員にあつては100分の58.75を100分の61.25に改めるものでございませぬ。

次のページ31ページでございませぬ。お願いいたします。これは先ほど申し上げましたが看護保健職給料表がございませんので削除するものでございませぬ。

次のページ、32ページをお願いいたします。富士川町職員給与条例の改正第2条関係でございませぬ。令和7年度以降の6月期及び12月期の期末手当及び勤勉手当の支給月を改正するものでございませぬ。

こちらは期末手当に係る第17条第2項でございませぬが、100分の127.5を100分の125に、また特定幹部職員、いわゆる課長職でございませぬが100分の107.5を100分の105に改めるものでございませぬ。第3項では、会計年度任用短時間勤務職員でございませぬが、100分の127.5を100分の125に、100分の71.25を100分の70に、100分の107.5を100分の105に、100分の61.25を100分の60に改めるものでございませぬ。勤勉手当に係る第17条の4第2項でございませぬ。次のページをお願いいたします。勤勉手当でございませぬが、100分の107.5分を100分の105に、また特定幹部職員については100分の127.5を100分の125に改めるものでございませぬ。

また第2号では定年前再任用短時間勤務職員ということで、100分の51.25を100分の50に、特定幹部職員にあっては100分の61.25を100分の60に改めるものでございます。タブレットの28ページに戻っていただきたいと思っております。28ページ附則でございます。附則といたしまして、この条例は公布の日から施行するものといたしますが、第2条の関係の規定につきましては、令和7年4月1日から施行するものでございます。また、第1条関係の規定による改正後の富士川町職員給与条例別表第2の規定は、令和6年4月1日から適用し、改正後の条例第17条第2項及び第3項並びに第17条の4第2項の規定は同年12月1日から適用するものといたしてございます。

次に、議案第63号の富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例についての補足説明でございます。タブレット35ページをご覧ください。こちらは富士川町職員給与条例の一部を改正する条例の改正を受け、同様の趣旨による改正になります。詳細につきましては、新旧対照表にてご説明させていただきます。次のページ36ページをお願いいたします。はじめに富士川町長等の給与及び旅費条例に関する改正の第1条関係でございます。こちらは本年12月期に支給する期末手当の支給月数の改正でございます。町長等に関する期末手当に係る第9条第2項でございますが、100分の225を100分の235に改めるものでございます。次のページ37ページをお願いいたします。こちらは第2条関係でございます。令和7年度以降の6月期及び12月期の期末手当の支給月数の改正でございます。第9条第2項におきまして100分の235を100分の230に改めるものでございます。続きまして38ページをお願いいたします。富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の改正の第3条関係でございます。これは本年12月期に支給する期末手当の支給月数の改正でございます。こちらは第6条第2項におきまして100分の175を100分の185に改めるものでございます。次のページ、39ページをお願いいたします。

こちらは議員等の報酬の改正の第4条関係でございます。こちらは令和7年度以降の6月期及び12月期の期末手当の支給月数の改正でございます。第6条第2項でございますが100分の185を100分の180に改めるものでございます。タブレット35ページに戻っていただきたいと存じます。タブレット35ページ、附則でございます。この条例は、公布の日から施行することとしております。第2条及び第4条関係の規定につきましては、令和7年4月1日から施行することとしております。また第1条の規定による改正後の富士川町長等の給与及び旅費条例の規定及び第3条の規定による改正後の富士川町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の規定は、令和6年12月1日から適用するものといたしてしております。以上議案第62号と63号の補足説明とさせていただきます。

ご審議いただき、ご議決賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第64号及び第65号について、補足説明を求めます。

子育て支援課長 一之瀬三千さん。

○子育て支援課長（一之瀬三千さん）

それでは、議案第64号行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に

関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、補足説明をさせていただきます。タブレット41ページをお開きください。行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例により、富士川町こども医療費助成金支給条例、富士川町ひとり親家庭医療費助成に関する条例、富士川町重度心身障害者医療費助成条例をそれぞれ一部改正するものです。改正の内容は、保険情報の確認について改正するものです。詳細につきましては、新旧対照表にてご説明いたします。タブレット42ページから44ページになります。富士川町こども医療費助成金支給条例新旧対照表第6条、次のページに移っていただき、富士川町ひとり親家庭医療費助成に関する条例新旧対照表第7条、次のページに移っていただき、富士川町重度心身障害者医療費助成条例新旧対照表第7条供に、「医療保険各法に規定する被保険者証または組合員証及び医療保険各法の規定による電子資格確認等により、被保険者または被扶養者であることの確認を受け上、」に改正するものです。タブレット41ページに戻っていただき、附則につきましては、公布の日から施行するとしております。

続きまして、議案第65号富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について補足説明をさせていただきます。タブレットの46ページをお開きください。富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する。今回の改正は、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴うものでありますが、富士川町におきましては、現在対象となる施設はございません。詳細につきましては新旧対照表にてご説明いたします。次のページをお開きください。富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例新旧対照表です。第29条第2項第3号、第31条第2項第3号次のページに移っていただき、第44条第2項第3号及び第47条第2項第3号中20人を15人に改め、前のページに戻っていただきまして、第29条第2項第4号第31条第2項第4号次のページに移っていただき、第44条第2項第4号及び第47条第2項第4号中30人を25人に改めるものとなります。タブレット46ページに戻っていただきまして、附則につきましては、令和7年4月1日から施行するとしています。

以上、議案第64号及び第65号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご議決賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

以上で町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時02分

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。

日程第 9 議案第66号 令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）

- 日程第10 議案第67号 令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
日程第11 議案第68号 令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
日程第12 議案第69号 令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）
日程第13 議案第70号 令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第1号）
日程第14 議案第71号 令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）
日程第15 議案第72号 令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）

以上の7議案は、補正予算案件でありますので、一括して議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第66号から第72号までについて、補足説明を求めます。

まず、議案第66号について、補足説明を求めます。

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

タブレット50ページをお願いいたします。議案第66号、令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）の補足説明をさせていただきます。次のページ51ページをお願いいたします。

（以下、令和6年度富士川町一般会計補正予算の朗読）

第1表歳入歳出予算補正につきましては、事項別明細書によりご説明いたします。タブレットの58ページをお願いいたします。タブレット58ページでございます。

（以下、令和6年度富士川町一般会計補正予算事項別明細書朗読説明）

次ページからは人件費に異動が生じたので、給与費明細書を添付してございますので、ご参照ください。すみません、タブレットを戻っていただきまして56ページにお戻りいただきたいと思っております。56ページでございます。56ページは、第2表地方債補正でございます。起債の目的補正後の限度額を申し上げます。道路整備事業限度額1億3090万、医療施設等整備事業200万いずれも起債の方法利率償還の方法等については変更はございません。タブレット申し訳ありません94ページまで進んでいただきまして、94ページは地方債の現在高の見込みに関する調書になります。この表の一番右下の数字が当該年度の現在高の見込み額となります。見込みといたしましては93億8813万9千円となります。

以上で、議案第66号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご議決賜りようお願い申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第67号及び第68号について、補足説明を求めます。

町民生活課長 原田和佳君。

○町民生活課長（原田和佳君）

それでは、議案第67号及び第68号について補足説明をさせていただきます。タブレッ

トの95ページをご覧ください。

(以下、令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算の朗読)

第1表歳入歳出予算補正の詳細につきましては、事項別明細書により説明をさせていただきます。

(以下、令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算事項別明細書朗読説明)

タブレットの102ページ以降は給与明細書となっておりますのでご参照ください。次にタブレット113ページをご覧ください。

(以下、令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算の朗読)

第1表歳入歳出予算補正の詳細につきましては、事項別明細書により説明させていただきます。タブレットの118ページをご覧ください。

(以下、令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算事項別明細書朗読説明)

以上で、議案第67号及び議案第68号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご議決賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第69号について、補足説明を求めます。

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

それでは、タブレット120ページ、議案第69号令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算第2号の補足説明をさせていただきます。次のページをお願いいたします。

(以下、令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算の朗読)

第1表歳入歳出予算補正については、事項別明細書により説明をいたします。タブレット124ページ、事項別明細書、表紙の次のページをお願いいたします。

(以下、令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算事項別明細書朗読説明)

次のページからは人件費に異動がありましたので、給与費明細書を添付しております。ご参照ください。以上、議案第69号の補足説明になります。ご審議いただき、ご議決賜りますようお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第70号から第72号までについて、補足説明を求めます。

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

それでは、議案第70号から第72号までの補足説明をさせていただきます。まずタブレット141ページ、議案第70号令和6年度富士川町水道事業会計補正予算第2号について、補足説明をさせていただきます。次のページをお願いします。

(以下、令和6年度富士川町水道事業会計補正予算の朗読)

詳細につきましては、事項別明細書でご説明させていただきたいと思っております。タブレット146ページをお開きください。

(以下、令和6年度富士川町水道事業会計補正予算事項別明細書朗読説明)

以下、次のページ以下は、キャッシュフロー及び人件費に異動がありましたので、ご参考

願います。

続きまして、富士川町簡易水道事業の第1号の補正予算の説明をいたします。タブレット164ページをお願いします。

(以下、令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算の朗読)

詳細につきましては、事項別明細書でご説明いたします。タブレット167ページを、お開きください。

(以下、令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算事項別明細書朗読説明)

次のページ以下補正予算キャッシュフロー計算書以下は、次以下につきましては、人件費等に伴う書類となっておりますのでご参照ください。

続きまして、議案第72号令和6年度下水道事業会計補正予算第1号を説明させていただきます。タブレット183ページとなります。

(以下、令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算の朗読)

詳細につきましては、事項別明細書によりご説明させていただきます。タブレット189ページをお願いします。

(以下、令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算事項別明細書朗読説明)

キャッシュフロー計算書以下につきましては、人件費の異動に伴います人件費等の明細になっておりますので、ご参照ください。

以上、議案第70号から72号の補足説明を終了させていただきます。ご審議の上、ご議決賜りますよう、よろしく申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。

○議長（堀内春美さん）

日程第16 議案第73号 富士川町過疎地域持続的発展計画の変更についてを議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第73号について、補足説明を求めます。

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

それでは、議案第73号について補足説明をさせていただきます。タブレット208ページをご覧ください。これは、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、令和3年度に策定した、富士川町過疎地域持続的発展計画の一部に変更が生じたので、議会の議決を経て変更するものであります。今回この計画中の本文や事業計画の内容につきましてその変更があったところのみの説明とさせていただきます。

タブレット次の209ページをご覧ください。はじめに、基本的事項においてになりますが、この中におきまして保育所の名称が保育園に変更になったことから、該当する箇所を変更いたしました。次の4の地域における情報化につきましては、事業計画表中の内容について変更をいたしました。次ページをご覧ください。3の地域における情報化の中の光ファイバーケーブル整備事業こちらを追加いたしました。次に5の交通施設の整備、交通手段の確保についてですが、こちら事業計画表中の内容で、鳥屋地内農道整備事業の延長230メートルを270メートルに変更しました。次のページをご覧ください。6の生活環境の整備についてでございますが、こちら事業計画の表中、消防団詰所建設事業を消防団詰所整備事業に変更いたしました。7の子育て環境の確保、高齢者の保育及び福祉の向上及び増進につきまして、こちらにつきましては、第5保育所が鯉沢さくらっこ保育園に次のページをご覧ください。母子・父子家庭がひとり親家庭に、その対策、その下の方になりますが、2の高齢者福祉の充実のところで、いきいき筋力教室が健康ひろばに変更となりました。

事業計画の表中の内容につきましては、次ページをご覧ください。母子健康づくり事業の中で、乳児医療が子ども医療、その下にございます母親の後ろに（両親）を追加する形になります。8の医療費の確保ですが、健康増進計画が健康プラン富士川（健康増進計画自殺対策推進計画）に次のページをご覧ください。肝がん検診が腹部超音波検診に変更となりました。9の教育の振興のところについてですが、こちら第5保育所が鯉沢さくらっこ保育園に、次のページをご覧ください。健やか育児学級（母親対象）のところが各種教室・相談事業また乳児・育児相談事業の拡充が内容の充実全体をとおしまして保育所のところが保育園に、変更となりました。次のページをご覧ください。事業計画の表中の中で、8の教育振興の区分になりますが、鯉沢中学校屋内運動場改修事業と社会教育・社会体育施設の長寿命化計画実施事業が追加となりました。12の再生可能エネルギーの利用促進につきましては、こちら保育所を保育園に変更と、次のページをご覧ください。13のその他地域の持続的発展に関し必要な事項、この中の事業計画の表中の内容につきましては、次のページをご覧ください。母子健康づくり事業の中の乳児医療の助成が子ども医療の助成、その下の母親の後ろに（両親）が追加となりました。

以上議案第73号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご議決賜りますようお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。

○議長（堀内春美さん）

日程第17 議案第74号 甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について

を議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第74号について、補足説明を求めます。

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

それでは、議案第74号について、補足説明をさせていただきます。タブレット220ページをご覧ください。本連携協約の締結に関する協議につきましては、甲府市とやまなし県央連携中枢都市圏に参画するために、地方自治法の規定により、連携協約を締結して協議を行うことについて議会の議決を求めるものでございます。協約の第1条には、圏域を形成する目的を定め、第2条では、目的を達成するための取り組みについての基本方針を、第3条では、連携する取り組み及び役割分担を、第4条では、事務執行に当たっての連携及び協力及び費用分担を、次のページをご覧ください。第5条では、定期的な協議を行うことを、第6条では、議事の解決について協議することを定めております。次のページ、タブレット222ページから226ページまでの別表2は、参画する市町が圏域を形成するため、連携する取り組みの内容と、甲府市と富士川町が行う役割、その目的に沿った22の取り組み項目について定めております。連携協約の締結日は、新たに参画する町を含めた9市3町の市町の長が出席する協議会において、協約を締結する予定でありますので、空欄となっております。

以上、議案第74号の補足説明とさせていただきます。ご審議いただき、ご議決賜りますようお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。

○議長（堀内春美さん）

日程第18 議案第75号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う山梨県市町村総合事務組合規約の変更について

日程第19 議案第76号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について

以上の2議案は、組合事務変更案件でありますので、一括して議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

次に、議案第75号及び第76号について、補足説明を求めます。

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

それでは、議案第75号山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う山梨県市町村総合事務組合同規約の変更について補足説明します。今回の改正は、提案理由、にもありますとおり、山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の交通災害共済について、令和7年度加入募集の最終年度とし、共済金の請求期間である2年間を猶予として、令和9年度をもって事業を廃止することに伴い、同組合の共同処理する事務を変更して組合同規約を改正するため、地方自治法の定めにより関係自治体の議会の議決を得るためのものです。タブレットの229ページを開いてください。新旧対照表をご覧ください。第3条組合の共同処理する事務中第12号の住民の交通災害共済事業を削り、別表第2中共同処理する事務のうち、第9号及び第12号を、及び第9号に改めます。1ページ戻っていただきまして、附則として、この規約は令和8年4月1日から施行するものとし、経過措置として、この規約による改正前の第3条第12号に掲げる住民の交通災害交通災害共済事業の事務については、令和10年5月30日までの間は、なお従前の例によるものとします。以上で議案第75号の補足説明を終わります。

続いて議案第76号、山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について補足説明します。今般この住民の交通災害共済事業を廃止することに伴い、共済金等に関わる財産を処分する必要があることから、その配分方法について、地方自治法の定めにより、関係自治体の議会に協議し議決を得るためのものです。タブレットの231ページをお開きください。この財産処分に関しましては、山梨県市町村総合事務組合財政調整基金の設置、管理及び処分に関する条例で規定する交通災害共済基金について、令和9年度末における基金残高を、昭和51年度から令和7年度までにおける、本共済事業の加入者総数に対する、関係市町村における当該期間の加入者総数の割合で案分して得られた額を、それぞれの関係市町村へ配分する額として配分するものであります。以上で議案第76号の補足説明を終わります。ご審議いただき、ご議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由並びに担当課長の補足説明が終わりました。

○議長（堀内春美さん）

以上で、本日の日程はすべて終了しました。

本日は、これにて散会といたします。

起立願います。相互に礼。ご苦労さまでした。

散会 午後12時00分

令和 6 年

富士川町議会 12 月定例会

12 月 9 日

令和6年第4回富士川町議会定例会（2日目）

令和6年12月9日
午前9時00分開議
於 議 場

1 議事日程

日程第 1 諸般の報告

日程第 2 一般質問

通告	1番	7番	望 月 眞	議員
通告	2番	5番	小 林 和 良	議員
通告	3番	1番	宇田川 朱 恵	議員
通告	4番	9番	齊 藤 欽 也	議員
通告	5番	4番	深 澤 一 幸	議員
通告	6番	2番	神 田 雅 也	議員
通告	7番	8番	小 林 有紀子	議員

2 出席議員は次のとおりである。（12名）

1番	宇田川 朱 恵	2番	神 田 雅 也
3番	依 田 誠 司	4番	深 澤 一 幸
5番	小 林 和 良	6番	秋 山 仁
7番	望 月 眞	8番	小 林 有紀子
9番	齊 藤 欽 也	10番	青 柳 光 仁
12番	井 上 光 三	13番	堀 内 春 美

3 欠席議員

11番 鮫 田 洋 平

4 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 (20名)

町長	望月利樹	副町長	早川竜一
教育長	古屋三千雄	選挙管理委員長	笠井修
会計管理者	河原恵一	教育次長	秋山忠
政策秘書課長	中込浩司	財務課長	深澤千秋
管財課長	渡辺成昭	税務課長	望月聡
防災課長	長田博幸	町民生活課長	原田和佳
福祉保健課長	遠藤悦美	子育て支援課長	一之瀬三千
産業振興課長	望月奈緒美	都市整備課長	井上勝彦
土木整備課長	山形謙一郎	上下水道課長	長澤康
教育総務課長	小林恵	生涯学習課長	井上誠

5 職務のため出席した者の職氏名 (2名)

議会事務局長	依田正紀
書記	井上直子

開会 午前 9時00分

○議長（堀内春美さん）

開会の前に、相互にあいさつを交わします。

起立願います。相互に礼。着席願います。

令和6年第4回富士川町議会定例会2日目の本会議に、議員各位には、大変お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまの出席議員は、12名であります。

定足数に達しておりますので、これから、本日の会議を開きます。

○議長（堀内春美さん）

日程第1 諸般の報告

この際、議案の審議に先立ちまして、諸般の報告を行います。

議長から報告します。

本日の議事日程は、お手元に配布したとおりです。

本日は、一般質問の日程になっております。

一般質問の通告者および当局者は、質問ならびに答弁の要旨をわかりやすく、簡潔に願います。

なお、富士川CATVが、一般質問を録画放送するため、議場内にカメラを設置し、撮影いたしますのでご了承願います。傍聴者の皆さまにおかれましても、撮影の対象となりますので、ご理解をお願いいたします。

また、11番鮫田洋平君から、今日と明日の2日間欠席する旨の届出がありましたので、ご了承願います。

○議長（堀内春美さん）

ここで、上下水道課長 長澤康君から、初日の補正予算案件議案第70号において、訂正の申し出がありましたのでこれを許可します。

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

1日目の議案第70号令和6年度富士川町水道事業会計補正予算第2号の補足説明の
おり、タブレット147ページの1款水道事業費用1項営業費用4目総係費の補正予定額を
86万6000円のところ88万6000円と誤って説明してしまいました。改めて86万
6000円に訂正させていただきます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

日程第2 一般質問

質問の通告者は、7名であります。これから、通告順に一般質問を行います。

それでは、通告1番 7番 望月眞君の一般質問を行います。

7番 望月眞君。

○議長（堀内春美さん）

7番 望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

高齢化社会の進行に伴い、公共交通の必要性も高まることが推測されます。そこで今回は本町の地域公共交通について通告に則り、質問いたします。通告事項1です。地域公共交通の運行についての質問をいたします。

最初の質問です。新たに作成された地域公共交通計画の交通計画でのデータ資料を見ると地域公共交通の利用度が低いことがうかがえます。とりわけデマンド交通の利用者数が年々減少していますが、この現状をどのように分析しているか伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。本町の、デマンド交通の利用状況につきましては、令和2年度から4年度にかけて利用者数が減少しており、令和4年度の年間利用者数は1万4628人でありました。この主な要因といたしましては新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響であると分析しております。

こうした中、令和5年度の年間利用者数は1万5319人で、前年比4.7%691人の増加に転じており、令和6年度におきましても、利用者数は前年度を上回り、右肩上がりとなる見込みであります。

しかしながら、コロナ前の利用者数の水準までは回復して回復していないことから、広報紙や出前講座により、デマンド交通の利用方法や利点についてより一層の周知を図り、利用者数の増加に努めてまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問お願いいたします。ただいまご回答の中で令和5年度は1万5319人、これデマンド交通地域と区域運行と定時路線の合わせた数ですね。報告がございましたが、令和5年度は4年度と比較して691人の増加というようなご回答がありました。私、新たに策定された地域公共交通計画のデータを拝見させていただきましたが、それによりますと、町民向けのアンケートの集計を見ると、町運行のコミュニティバス、ホリデーバス交通利用者は回答者の3%未満と低い結果でした。これはですね、特定の人に実施したアンケートではなくて、町民全体から取ったアンケート結果ですので、この結果は想定内の結果だと言ってもいいと思います。ただですね、利用しない理由として、15%の人が利用方法がわからないと回答しています。また、区域変更デマンド交通利用者登録者は57名が回答していて、その利用していて、そのうち利用していると答えた人は13名でした。デマンド交通区域運行利用状況を見ると、令和5年度の1万6913人をピークに年々減少し、令和4年度は3年度より565人減少した時1万2868人でした。特にですね、デマンド交通区域運行の見直しが必要だと思いますが、町の考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。区域運行については、本年度旧増穂地区において16時便を区域運行からデマンド運行に切り替えを行いました。

その結果として、買い物、病院に出かけやすくなったという声を、いただいております。今後も必要に応じまして、区域運行の見直しを行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ただやっぱり運行状況を見直していくことが、必要だと思います。そこでですね、デマンド交通区域運行の見直しに関連して、次の質問になります。

南アルプス市ではデマンド交通を運行せずに、高齢者等にタクシー券を配布しています。（2）の質問になりますが、地域公共交通利用者の利便性の向上を図るために、高齢者等にタクシー券交付導入の検討ができないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町では予約制の乗り合いタクシーであるデマンド交通を町内タクシー事業者に委託し運行することで、交通弱者の支援、交通空白地の解消を図っています。タクシー券の交付は、交通弱者への新たな交通手段の提供として、有効ではありますが、需要に対する町内タクシー事業者のドライバーや車両台数の確保、事業実施の財政的な負担等を考慮する必要があると考えております。こうしたことから、現在町で研究している高齢者や障害者等を対象に、町内を500円で移動できる、ワンコインタクシーも視野に含め交通弱者への対応を慎重に検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

今ですね町長の方からワンコインタクシーの導入も視野に入れながら検討していきたいというご回答がありました。再質問をお願いします。南アルプス市の高齢者タクシー利用助成制度について南アルプス市を視察し、担当者から説明を受けました。市内に住む利用希望者からの申請により、65歳から74歳までの免許返納者には月2枚分を75歳以上の方については、免許返納者及び免許を持っていない人に月3枚分を、免許保有者には月2枚分を配布しています。いずれもタクシーの初乗り分に当たる助成だそうです。これは大体600円ぐらいになるかというふうに聞いておりおりますが、利用者が増えていることで、今年度から月3枚に増やしたそうです。茨城県結城市では高齢者タクシー制度があり、市内65歳以上の高齢者を対象に定額制限の補助をしています。利用予約利用できるのは、通常のタクシー

利用者が少ない平日の9時から15時の間だということです。大洗町では75歳以上の町民を対象に実証実験として期間限定で町内を500円で移動できる500円タクシーを導入しています。本町でもですね町長の答弁にもありましたが、デマンド運行と兼ね合いながら、タクシー券導入を前向きに検討すると良いと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。現在、タクシー業務を行っているのは、町内2社であります。限られたドライバーや車両台数を効率よく活用させていただく場合に、こういった形であれば、町民の需要に応じていけるか等については、今後、事業者と協議する中で検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

近い将来、いわゆる団塊の世代と言われる人という人たちを中心に、免許返納者が増えることが予想されます。もう私も、もうそろそろ免許返納しなきゃならないかなというような思いを持っておりますが、公共交通機関としてのタクシーの必要性が高くなると思います。今現在、2024年問題も影響して、タクシー業界は営業困難な状況にあります。閉店する事業者が増えています。市川三郷町では、タクシー業者がなくなり、タクシーを利用したい町民が不便していると聞いております。本町内のタクシー業者を支援する手立てとしても、タクシー券の導入について、事業者の意見も聞きながら、前向きに検討していただきたいと思っております。

(3)の質問になります。身延町営バスは、高校生以下は無料です。身延高校に通学している本町生徒たちもその恩恵を受け、多数の生徒たちが、身延町営バスを利用しています。そのことも踏まえながら、質問をいたします。子ども政策の充実と地域公共交通の活性化を図るために、コミュニティバス、ホリデーバスの18歳未満者、高校3年生を含む子どもたちと障害者の人たちの運賃の無料化ができないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。町では、コミュニティバス、ホリデーバスともに全区间一律で200円、小学生以下は100円で運行しております。また、ホリデーバスにつきましては、障害者や町内の小・中学生、高齢者は指定された証明書等の提示により、無料で乗車が可能となっております。

こうした中、無料化の各対象拡大の実施については、公共交通利用の増加が見込まれる一方で、運行収入の減少による財政負担の増加が懸念されます。

このため、利用状況や財政状況を注視しつつ、持続可能な運行が行えるよう、調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

今利用状況、あるいは無料にした場合の経費のことも含めながら検討していただきたいというご回答を得ました。再質問をお願いします。私は青洲高校、通学生徒たちが利用している7時30分、これ2便ですね、改めてコミュニティバスに乗り換えて、高校生や運転手さんと意見交換をしました。富士川病院から身延町身延町に在住している生徒2名が、身延町営バスから本町のコミュニティバスに乗り換えました。その際ですね、富士川バスも無料になると嬉しいですよと話していました。この日の2便には、2便バスには14名の青洲高校生の乗車がありました。運転手さんに聞いたところ大体そのくらいということでしたが、ある高校生は進学に備えて貯金をしています。バスが無料になると本当に助かりますと話していました。平成7年度には、富士川中学校が開校されます。鰯沢北区、6年度かな、ごめん、失礼しました、平成6年度ですね。富士川中学校が開校されます。鰯沢北区中区南区の一部生徒は、徒歩通学とされています。しかしですね、コミュニティバスが無料になれば、生徒たちの通学手段としても活用することができます。天候が悪いとき、怪我をしたり、体調が悪いとき、荷物が多いとき、あるいは部活動に早く出かけるそういったときにですね、通学バスとして臨機応変に活用することもできます。こども政策及び子育て支援政策の向上にもつながります。子どもにやさしい町づくりの具現化になると思います。実現に向けて前向きに検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。コミュニティバスについては、JR時刻表に合わせ、ダイヤとルートを決めているため、中学生の通学通学利用については、路線変更を伴うことから現状としては難しいと考えますが、利用状況や財政状況を注視しつつ、特に通学利用となる高校生については、今後調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問ですが、今のコミュニティバスの運行状況でですね、1便2便を利用すれば、鰯沢地区の中学生たちがバスを利用することは私は可能だと思うんですよ。時間帯の変更運行通路の変更しなくても十分できるんじゃないかというふうに思っております。その点についてどうでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。中学生の利用状況については、現状として利用が可能ということではありますが、やはり利便性を考えたときに、ルート変更も今後検討して考えて

いきたいと考えております。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

了解しました。ちなみにですね、14名の子どもたちが、青洲高校のバスをほとんど利用しています。毎日ですね、やって考えてみると1日往復で400円定期を使ってる人は少ないようですね。400円、それで150日間ぐらいだと考えると、年間90万円位の補助になると思うんですね。そういった点を考えれば、やっぱり前向きにぜひその点は高校生の無料化ということも、考えてもいいんじゃないかなというふうに思います。運転手さんが、身延の人たちの声の中から身延町営バスを富士川や南アルプスの生徒たちが使っていると、鰍沢口から乗ってくわけです。鰍沢の営業所から乗ってくわけですけどもそうすると身延町の身延高校へ通っている子どもたちは座れないと身延町でお金を出しているのに、これっておかしいですよっていう町民の声もあるというようなことを私は聞きました。ぜひですね高校生の無料化はね、実現してほしいと思います。再質問お願いします。

ホリデーバスについてですが、中学生以上200円小学生100円、町内小・中学生無料で運行されていますが、ホリデーバス自体は利用者が少ないのが現状です。ホリデーバスを利用して町内外の子どもたちが三筋観光を中心に町の中を自由に散策できれば、町の活性化にもつながります。富士川中学校が開校開校すれば、生徒間の交流区域も広がります。生徒間の交流の足としての役目役割を担うことができます。ホリデーバスの子どもの運賃の無料化についても前向きに検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。コミュニティバスと同様に今後調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

（4）の質問になります。私は、鰍沢地域の住民から様々な要望や意見を伺っています。前からですねその一つに、富士川病院の通院や増穂地区や道の駅、道の駅への買い物や用事に行くと、交通手段を増やしてほしいとの声が多数ありました。複数ありました。

そこで（4）の質問です。鰍沢地区住民の利便性を高めるために、ホリデーバス平林線の運行を、小室線のように鰍沢市街地を通るように変更できないかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えします。町では、土日祝日に中山間地域と市街地を結ぶホリデー

バスを運行しております。このホリデーバスは主に観光客や中山間地域の住民の移動手段として利用されており、平林線につきましては鯉沢口駅から国道52号線をとおり、平林まで運行するルートとなっております。鯉沢市街地を通るルートへの変更につきましては、停留所の増加により、利用者、利用者の利便性向上へとつながることから、実現に向けて進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

えとですね。これはですね鯉沢地区の皆さんだけでなくですね旧増穂町地区の皆さんも例えば図書館行くのにね、利活用もできるんじゃないかなと思います。実現に向けて取り組みたいというご意見をご回答いただきました。路線バスの変更には、地域公共交通活性化協議会や山梨交通との協議検討、警察や交通安全協会との確認、陸運局への申請と多くの手続きが必要となりますが、住民の交通利便性向上のために、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、通告2の質問について質問に移ります。富士川町地域公共交通計画についての質問です。本年6月に新たに策定された富士川町地域公共交通計画は、町内交通公共交通の現状と課題を把握し、観光振興計画と町の主な計画と連携するように、配慮されています。富士川町総合計画の一端を担う計画としての位置づけもなされています。計画では、将来を見据えた持続可能な公共交通の実現、生涯快適に暮らせる町のための公共交通を基本方針に1住民生活を支える公共交通の確保、2利用者に寄り添った公共交通、3未来に誇れる公共交通体系の模索の三つの基本目標を掲げて、平成10年までを取り組み期間としています。

(1)の質問になりますが、利用者に寄り添った公共交通の具体的施策として観光政策と連動した交通網の構築を提示していますが、他の市町との連携も考えていくのか伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。他市町との観光政策と連動した公共交通の連携につきましては、現在山梨県及び峡南5町における峡南地域ネクスト共創会議のワーキンググループにおいてその可能性を研究中であります。具体的な取り組みにはいたっておりません。今後、このような広域連携の枠組みの中で、観光分野を含む他市町との連携が具体的に進展した場合は、公共交通の相互乗り入れなどの調整につきましても、整備につきましても検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

この計画では、町内の観光政策に合わせてホリデーバスやコミュニティバスの公共交通の見直しを行うと提示されています。町民の利便性やまちの活性化を考えると、近隣市町との相互乗り入れもさらに推進したら良いと思います。例えばですね、南アルプス市営のバスを道の駅富士川まで乗り入れてもらう。道の駅の活性化にもつながる、そういう希望も南アル

プス市の市民の中にあるんですね。また本町のバスを南アルプス市の市立美術館まで乗り入れることができると思います。南アルプスの町営バスは、この市立美術館が起点になって、いくつかのルートがあるようなやつがある、で、コストコへということも出てくるんじゃないかなというふうに思います。相互乗り入れが難しいのならば、乗り継ぎができるように、路線や運行時間の検討をしたら良いと思います。観光政策の推進を図るためにも、町営バスの相互乗り入れや乗り継ぎ等の運行について、先ほど言いました峡南5町での協議や、新たに発足する予定の連携中核都市、都市圏構想の中で具体的にですねこういったことを検討を進めたら良いと思うんですがその点についていかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。これは再質問ですか。

○7番議員（望月眞君）

再質問です。失礼しました。再質問です。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。他市町の他市町への乗り入れにつきましては、路線延長に伴う新たな財政負担の検証もありますが、併せて乗り継ぎ路線の検討や相互乗り入れには、該当市町の公共交通関係者の理解も必要となってまいります。様々な要件がクリアとなることが求められますので、今後、今後は観光分野を含む市町との連携が具体的に進展した場合は、関係機関との協議を行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

具体的な事項を基にして連携協議をしていくことが大事だと思うんです。この一つのものでこの構想を進めていくうえでの材料になると思うのでぜひその点をご配慮して呼びかけとか投げかけをしていただきたいなというふうに思います。

(2)の質問です。11月25日の山梨日日新聞紙上に甲斐市のAIオンデマンド交通の実証実験記事が掲載されました。AIデマンドバスは、時刻表や決まった運行路線がなく、AIが予約状況において最適な運行ルートを探して走る乗り合いバスであり、全国各地で運行されています。そこで質問します。計画では未来に誇れる公共交通体系模索の具体策政策として、AIデマンドの導入を検討していくとありますが、現時点においてAIデマンドのメリットデメリットをどのように捉えているかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。AIデマンドシステムのメリットとしては、オペレーターを介さず、スマートフォンなどを通じてリアルタイムに予約ができ、最適な運行ルートが自動で設定されることから、運行コストの削減や、利用者の利便性向上が期待できるもの

と考えております。一方、デメリットとしては、デマンド交通を利用している多くの方が高齢者であり、不慣れなスマートフォンの操作により利用が困難である場合が多く想定されることまた、システムの導入、導入や維持に大きな費用がかかることが、課題であると考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問になります。本町規模の町の公共交通として、A I デマンドの利用度がどれくらい合うのか、ちょっと疑問が残ります。先ほど回答にもあったように、高齢者にとっては活用の仕方が難しいことも予想されます。また、A I デマンド運行整備には多額の経費が予想されます。費用対効果を考慮すると、A I デマンド公共交通配置配備については、私は慎重に検討すべきだと思いますが、当局のお考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。メディアにおいては、A I の良い面が取り沙汰されておりますが、本町の利用者の多くは高齢者であり、オペレーターとの会話の中で、そのやり取りの中で予約が変更されることも多くあります。町としては、利用者の利便性を第一にと考えており、こうしたことから、デマンドA I デマンドにつきましては慎重に検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

ご回答のようにやっぱりメリットデメリットですね、よく検討してですね、費用対効果のことも考えてこれは取り組みを進めていただきたいというふうに思います。

(3)の質問になります。昨年度の私達富士川町議会の議員視察研修で茨城県境町に行き自動車運転バスに試乗しました。失礼しました、自動運転バスに試乗しました。安全静かな運行で快適に移動することができました。

(3)になりますが、未来に誇れる公共交通体系の策には、自動運転技術の導入の検討とクリーンエネルギー車両の導入促進を提示していますが、将来的に自動運転運行路線の整備配置を目指すのかを伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。自動運転路線の運行につきましては、自動運転技術の進歩やクリーンエネルギー車両の更なる進化及び社会情勢の変化を、注視しているところであります。今後は、国や県、国や県の動向を見極めつつ、本町の地理的特性や、交通事情を踏まえ、自動運転運行路線の整備や配置の可能性について調査研究してまいりたいと考えて

おります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

再質問をお願いします。自動運転バスも既に全国各地で導入されています。

福井県永平寺町では、運行地域と速度限定ではありますが、国内で初めてレベル4にあたる完全自動運転バスが運行されています。私達が試乗した境町の自動運転バスは、特定条件下での運転可能なレベル2の段階で私達が試乗したときにも管理担当者が同乗していました。境町はレベル4運行を目指しているとのこと。本町で自動運転バスを導入するとしたら安全性及び利便性を考慮した、運行ルートや運行時間など細部の検討が必要になりますが、こういった取り組みが必要取り組みの見直しについて必要性の見直しについて伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。今後、更なる高齢化や免許返納者が増えてまいりますので、新たな交通システムの導入については、この自動運転バスを含め検討していかなくてはなりません。しかしながら、道路の形状や交通状況、警察の指導など課題もありますので今後はそうした課題や需要も研究する中で検討してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

検討材料の一つとして、やっぱりこれを配備するためのやっぱり財政をどうするか、多くの経費がかかることが見込まれます。再質問になります。自動車運転の整備配置には、車両の購入や運行ルートの整備等で多くの経費が見込まれます。国交省による地域公共交通確保維持改善事業補助金、これも合うとお聞きしていますが、導入するとしたらば、その財源についての見直しについて伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。自動運転技術やSDGsの観点からも、国においてさらに推進していくことが考えられます。国等の有利な財源について注視しながら、あわせて研究してまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

私はですね、安心安全で暮らしやすい町づくりあるいは環境にやさしい町づくりを推進する具体的方法として、自動運転バスの配備には賛成をしております。これは、町のイメージアップにも繋がってくると思います。ただ、回答がございましたように、多方面による検討

がこれから必要になってくると思います。今ある地域公共交通、デマンド定時路線やコミュニティバスの運行のあり方とも勘案しながら、総合的かつ実践的に検討を進めていただきたいと思います。高齢化社会の進行に伴い、本町においても、免許返納者等交通弱者が増えることが想定されます。地域公共交通の必要性もこれまで以上に高まります。将来を見据えた持続可能な公共交通の実現を見据えて、しっかりと具体的にかなり計画的に取り組んでいただきたい、そのことをお願いして私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告1番 7番 望月眞君の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

続いて、通告2番 5番 小林和良君の一般質問を行います。

5番 小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

はいそれでは通告に沿ってですね質問をさせていただきます。

本日は2つの項目について質問させていただきます。1項目目はですね、増加する空き地空き家対策について、2項目目は国際交流の進め方について以上の2項目について質問させていただきます。

それでは1の増加する空き地空き家対策についての質問に入ります。空き家に関する質問については私としてはこれで3回目になります。その間私のところでですね、やっぱり空き地空き家の問題が多く寄せられてきています。担当課にはその都度対応を行っていただけてますけども、その数はやっぱり増加してるんですね。これまではですね、空き地や空き家の個別対応に重点を当てて質問させていただきましたけども、それだけではなくこれらを一連の流れとして捉え、町の地域活性化と持続的な発展に、向けての空き家や空き地の活用策を検討する必要があると考えます。現在町では、空き地空き家対策において、課題ごとにですね担当課が分けられそれぞれが業務を進めています。どのように分けられているのかということですね一応パネルに内容をまとめてみました。パネルまたはですねタブレットのデータまたお手元の資料をご覧ください。まず、空き家についてですけども一例を挙げるとですね、崩壊の恐れがある、または崩壊している空き家については防災交通課が、危険空き家または特定空き家化のレベル判定を行います。その後、危険空き家を解体する場合の補助金申請は今度は都市整備課が行うます。空き家でも使用可能な空き家で、所有者が売却または賃貸を希望する場合は、空き家バンク登録を行うことができますがこれは政策秘書課が行って、そして空き家でも空き店舗の場合には、産業振興課が、担当となります。そして空き地今度は空き地の場合ですね、空き地の場合は放置した空き地の雑草が民家に悪影響を与えている場合は、町民生活課が行う。そして今度は空き地の雑草や樹木が道路にはみ出している場合、そして通行に支障がある場合は今度は土木整備課さんがやるというふうに、このように町の対策はですね、明確に縦割りになってるんですね。それではまずこの表を頭に置きながら1の質問に入りたいと思います。(1)ですねこのように縦割りの構造となっている現在の空き地空き家対策や、これらの活用を含む各担当課の業務体制について、どのような課題

があるとお考えなのか、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。現状の業務体制は、行政組織規則に基づきまして、それぞれの担当部担当課で部署で業務を行っているところでございます。空き家空き地等の業務につきましては、案件内容が非常に複雑なものもございましてそれが多く見られることから、早急な解決策がなかなか見られない取れない状況から、全国の自治体でも対応に苦慮しているところでございます。また今議員がご説明したとおり事業名案件の内容によっては担当課が異なってきますので、業務の簡素化も課題となってくるところでございます。こうしたことから組織を横断した業務体制の必要性は理解してございます。業務の整理が可能であるかの研究も進め、体制構築に努めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけれども体制構築に努めていきたいというご回答ですが、今年の3月にですね、私が空き家対策の一般質問で、最後にやっぱり体制作りについて質問させていただいております。これについて町長よりですね、ステージが上がるような組織体制も模索しながら、今後力を入れていきたいというご答弁がありました。その後の体制作りはどのように進んでいるのかお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。空き地それから空き家の案件につきましては、個人資産や所有者の権利関係、利害関係、それから複雑化する相続関係などがございまして、問題解決にはですね、当事者の行動協力が不可欠になります。それでも町では、関係課で構成いたします富士川町空き家等対策調整委員会がございましてこれにおいて、空き家の課題検討は実施してございますが、空き地等を含めた横断的な体制作りは進んでおりません。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけれどもやはりその体制が進まない理由、要因はですね、具体的にどのような理由が考えられるのか。もう一度お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。個別の案件のに対応した担当がそれぞれ処理する

ことで、その案件を取り扱う担当課の所在や責任を明確にしておく必要がございます。

こうしたことから、体制作りが進んでいない要因と考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけれども空き地やですね空き家等に関して長期的な視野での解決策や計画が長期的にですね、計画されているのかをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。本町では富士川町を空き家等対策計画が平成31年に作成されておりますが、この計画では空き家に係る計画でございまして、空き地等を含めたいわゆる長期的な計画解決策や計画が策定されて、おりません。検討がされていない状態でございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

それでは検討されてないということですので、(2)の質問に入ります。それまでにですね、現在検討されていないということなのでこちらからですね、一つの案として、以下のプランを提案させていただきます。それはですね、このパネルをご覧いただきたいんですけども、各課をですね、横断するプロジェクト、また組織を作って、結果的に地域活性化につなげる、というものです。例えば、空き家は解体すると今度は空き地になるんですね。そして何もしなければ今度は空き地のままとなって、管理対応が必要になってくると、この空き地をそのままではなくて、地域の活性化に活用につなげると、町の都市整備の観点から、検討を行う必要があると考えます。空き家についても同様に個々の対処に終わらずに、地域活性化を目標としたプロジェクトとしての一連の繋がりのある施策を生み出す必要があると考えます。これには各課の壁を越えるですねための統括するリーダーの存在が不可欠となります。各課は各課でいろんなお考えがきつとお持ちなんですけれどもそれを超えなければその先には行けないと思いますので統括リーダー相当の権限を持った統括リーダーが必要になると思います。そしてそれをすることによって、ワンストップ窓口そこに行けば大体わかると、あと業務の効率化、申請やら何やら、だぶってるところが結構あると思うんですね。その削減になるとあとは情報の共有ができる。あと有効活用までつなげることができると、いずれはオンラインで相談システムができるというふうにそれがトータルして地域の活性化に繋がるというふうに考えております。これは私の考えなんですけども、あとは民間企業もこれにある程度参画してですね、土地の売買その他計画もきつとございますでしょうから、民間企業も参画して行うというようなことは、このような壁を乗り越えたですね、プロジェクト化を進めるというお考えについてはいかがでしょう。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。空き地空き家の対策として各課を横断したプロジェクト化により、その解決策、活用策を検討することは、情報の共有とその該当する案件をいかに地域の活性化に結びつけていくことができるかなど、解決策や活用策の提案が生まれてくるものと考えてございます。

こうしたことから今後、現状の業務体制の見直しを検討するとともに既存の関係課で構成されております富士川町空き家等対策連絡調整委員会の体制の整備強化を強化する方法も考えられますのでプロジェクト課の設置について研究してまいりたいと考えてございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

現実的にですねプロジェクトが私は簡単にあれしてるんですけども、この構築するにあたり解決しなければならない事項があれば、現時点でですね、教えていただきたい。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。専門的な知識を有する職員がいないこと、それからプロジェクトチームを構築した場合、先ほども申し上げましておりますが、富士川町空き家等対策空き家等連絡調整委員会との関わりの調整のこのすみ分けが必要になってきます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。それでは（3）の質問に移ります。今おっしゃられるようにいくつかの解決しなければならない事項はあるようですけども、プロジェクト化によりですね、解決策や活用策が生まれてくることは考えられるというご回答ですので、プロジェクト化等ですね、体制作りについてどのように進める予定なのか。スケジュールがお答えできるのであればお伺いします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。プロジェクト化の体制作りには当たりましては、先ほども申し上げておりますとおり既存の富士川町空き家等対策連絡調整委員会が設置されておりますので、この委員会の推進体制を整理強化していく。強化し運用していく方法も考えられます。この委員会はですけども、空き家等の具体的な政策の協議検討、及び情報共有並びに具体的解消策の円滑かつ適切な遂行を目的に設置しております。こうしたことから、

まずは業務の共有認識や人員を含めた、課題整理の検討を進め方向性を決めていきたいと、考えてございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけれども具体的にですね、目標とするスケジュールをお聞きしたいんですけども、提示は可能でしょうか。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えします。今年度中に組織の設置について方向性を決めまして明年度から運用をしていきたいと考えています。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

町長から明確な回答をいただきましてありがとうございます。富士川町ですね持続的な発展のためには、増加する空き地空き家への対応とその活用をですね、一連の流れとして捉えることが不可欠だと思います。要は対照的な対策だけではなかなか持続可能な、町にはならないと考えますこれらの体制作りをどうぞまたよろしくお願ひいたします。

それでは、大きな2の質問に移ります。2はですね国際交流の進め方です。町はフィリピン共和国のラプラプ市と国際交流を進めようとしています。まずラプラプ市ですが、フィリピンのどの位置にあってどんな市なのか、ちょっとパネルでですね、確認したいと思います。お手元の資料またはタブレットでご覧ください。ちょっと私調べてみました名前を聞いてもなかなか感覚的にわからないのですよね。日本との距離は3000kmというですね南の方に行ったところ、この3000kmというのが、日本国の一番北から南までいったところの距離にある程度に相当するという距離だそうです。そのフィリピンというのはですね、真ん中がフィリピンを拡大したところですけども、この7641の島からなっていると、群島国家っていうんすかね島の塊の国であるということです。そして今度はラプラプ市なんですけども、ラプラプ市はですね、そのちょうど真ん中のわかりますが赤い丸のところのこの島なんですけども、ここに存在する。それを拡大したのが右に行ったところなんです。これがラプラプ市であると、おそらく皆さんなかなか感覚的につかめないと思うので私も勉強しながらここまでやりました。下には比較表を一応作ってみました。特徴なのはですね、面積的には富士川町よりラプラプ市の方が狭いと富士川町の1.7倍広いですね。ただ富士川町は81%ぐらいが山間部なのでそっからすれば、全てが平地ではないので、比較にはならないと思います。面積的にはそうなっているとあとは人口ですけども、これがまたラプラプ市はですね、49万7604人ということですね。我が富士川町は1万3000ちょっと1万4000ちょっとを切ったと、1万3477人なんです。だから人口比だけで言うと35倍ということになります。あとは産業としては観光業、その辺が非常にサービス業が多いということなん

ですね。あとは時差なんですけども、1時間ということですから、日本が午前10時のときはフィリピンは午前9時と1時間に遅れるというか、ちょっと後に来るという関係ですね、これが一応ラプラプ市の情報と、これを見ながらですね、頭に置きながら、(1)の質問に入ります。

このラプラプ市とですね縁があって国際交流を進めようとしていますが、町にとってはどのようなメリットとかプラス面が考えられるのかお聞きします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町では、町民の方々が英語力を身につけて、異文化に触れる中で、多様な文化を理解し、国際感覚がより豊かになることを目的に、国際交流を進めていきたいと考えています。このような中、本年2月に町長がラプラプ市長を表敬訪問し、7月にはラプラプ市、訪日団が富士川町を訪れたことにより、交流をさらに深める機運が高まっております。また、フィリピン共和国は英語を母国語または公用語としていることから、英語圏の都市との交流が子どもたちの英語力に大きな影響を与えるものであるとと考えています。

こうしたことから、ラプラプ市と交流を進めることで、文化交流が活発になることグローバル教育の充実がメリットであると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけども、本町とですね友好都市協定を結んでいる大洗町があるんですね。ここは2022年にラプラプ市と姉妹提携を姉妹都市提携を結んでいる。実際にもうやってるわけですから、実際にどのようなメリットとかプラス面があったのか把握してる部分を教えてください。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。英語教育で交流を行っている大洗町では、児童生徒において、外国人に対し、遠慮なく行動できる積極性が身に付いてきたとこのことです。

また、海外観光客を乗せた船が大洗町に寄港したときに、児童生徒がもてなしたことが、旅行客に好印象の好印象を与える感想が町に寄せられたことがあります。さらに、町内中学生が受けている英語テストでは、リスニングの評価が良く、中学校3年生の英検3級の取得率が上がってきているとこのことです。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけども、主に教育面では、効果は大きいような大きい大きいということですが

ども、他にはですねどんな影響が考えられるのか、プラス面があるのかお伺いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。町民の方々が異文化異文化に触れることで、日本文化のまた富士川町の良いところが再認識できるのではないかと考えております。今後、外国人との交流機会が増えるとなれば、町以外の様々な団体の協力を得る中で、今よりも交流活動が広がるような取り組みができることが良い影響となるのではないかと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

確かに交流の機会が増えればですね、日本人だから気がつかないところが海外の方から見たら素晴らしいスポットの発見にも繋がる可能性があると思います。それが例えばSNSで広がっているような世界に広がる可能性もあると思います。またフィリピンの学校教育制度にも非常に興味があるところです。これはコミュニケーションによっていろいろな情報を得られるでしょう。それでは（2）の質問に入ります。町長がですね、ラプラプ市を訪問してから10か月が経過してます。国際交流に向けた現在の進捗状況についてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。町では7月13日にラプラプ市長の家族を含む9名の皆さんが富士川町に来ていただき、日本食の提供や小室山妙法寺を案内するなど交流を深めることができました。また、8月には外務省職員の協力をいただく中で、国際交流についての相談を重ねているところであります。こうした中、ラプラプ市長の秘書官から姉妹都市提携に係る手続きの進め方などについて連絡をいただき、引き続き協議を行っていくこととしております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

再質問ですけれども今後の進め方なんですけどね。具体的にはどのように、町は行動していくのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。ラプラプ市とさらに交流を進めるには、姉妹都市提携を目指し、お互いより親密になれるよう、オンラインを活用したラプラプ市との交流の進め方について検討しているところであります。また、提携協議を進めるために必要な文書の

提出を求められており、作成に向けて準備を進めております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

ところでですね、ラブラブ市側としては本町と姉妹提携を結ぶことについては、前向きなんでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。姉妹都市提携協議を始めるための手続きを進めていますので、合意に向けた体制が構築されているものと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

わかりました。それではもう少しですね、提携に向けたスケジュール、具体的な説明をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。具体的なスケジュールとなりますと、年度内の締結を目標に協議を進めていく考えでおります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

年度内の締結を目標とするということですので、承知いたしました。国際交流の推進はですね、町の魅力を広げて、住民1人1人の視野を広げ、豊かな文化を育む力となると思います。この取り組みが実を結ぶことを楽しみにしております。以上で私の一般質問を終了いたします。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告2番 5番 小林和良君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時10分

再開 午前10時20分

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。

始めに議長から注意を行います。携帯電話をお持ちの方は、電源を切るか、マナーモードにさせていただきたいと思っております。

それでは再開いたします。

続きまして、通告3番 1番 宇田川朱恵さんの一般質問を行います。

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

それでは町民との協働について一般質問をさせていただきます。私もこの質問は3回目になりまして、毎年12月に一般質問をさせていただいています。まずですね、今回ちょっと1年前でしたので、なぜ協働が必要かということのをちょっともう一度改めて考えまして総合計画をもう1回ちょっと読ませていただきました。質問の前にですね、なぜ協働が必要になっているということと、あともう一つ協働の定義についてこの場での共通認識として、まず確認の方をさせていただきたいと思います。なぜあの協働が必要かということなんですけれども協働がもう不要だっていう意見はもうほとんどないと思われましてけれども、まず1点言われているのが地方分権の流れにより、町民と一緒に町づくりに取り組んでいく、新しい形の行政の形が求められているということ、あともう一つですね町民の側からも自分たちの町は自分たちで作る、作っていききたいという機運が高まっているということで、また1990年ぐらいから課題が複雑化個別化されておりまして、一律的で公平公正なサービスを提供する行政の対応が難しくなっていること、この辺りがよく言われていることなんですけれども、またですね最近さらにこの協働が進んできたっていう背景には、この協働進めている町は非常に活発で元気な町が多いと思います。それはどうしてかと言いますとやっぱり町民協働が進むっていうことは、今までの旧、古くからここにその地域に住んでいらっしゃる住民の他に、新しく入ってきた住民の方が非常に入りやすいということ、あの若者や女性、このあたりの方たちの声も拾いやすいということもあると思います。さらにですね、少子高齢化が急速に進むために起こっています、現在も起こっている労働人口、これの急激な減少ですね、この現象が今までの社会サービス、望月議員の一般質問にもありましたけれども、公共交通の維持とかタクシー会社の維持っていうのは、もう本当にこれだと思ってしまうんですけれども、このような社会サービスの維持ができなくなるということとして、そのことの解決の一つとしても協働は有効だと言えます。次にですね、協働の定義についてなんですけれども、これをちょっと調べたんですけれども非常に曖昧でして、参加と参画と協働がありましてさらに協力という言葉もあるんですけれども参加の方が段階が低いっていう言葉もあるんですけれども今回ちょっと第二次総合計画の中で参加、参画、協働と全て使われていたんですけれども、同じような意味で使われていると考えますのでそここのところはちょっと深く定義はせずに今回の一般質問は進めさせていただきたいと思います。

それではですね、一番目の質問に移りますけれども、まず富士川町の協同の方向性について確認させていただきます。こちらパネルになりますけれども傍聴者の方はお手元の資料をご覧ください。こちらの抜粋になります。この総合計画は今から6年前に策定されたものになります。平成30年から37年度の第2次総合計画になります。この計画といたしましては、協同の目標として、みんなで築く町づくり、地域の課題は地域で解決する、行政情報の充実、住民参加の拡大が挙げられております。下の部分なんですけれども、パネルの下の部分、傍聴の方2枚目になりますけれども、こちらは実際のその施策として書かれております。

けどそこはですね、住民参加の拡大、あと高齢者NPOとの協働、あと情報の共有を行っていくということが挙げられております。一番の質問になります第2次総合計画における協働の中で、具体的に進んだと考えられる施策は何か、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。第2次総合計画では、寄り合いワークショップを開催しながら、地域の課題を地域で解決する機運を醸成し、住民参加の機会を拡大しつつ、地域力を生かした町づくりを推進することを掲げています。町では、町長とのほっとミーティングや対話集会などを開催し、町政を身近に感じてもらえるよう、町民の皆様から直接ご意見を伺う機会を設けています。また、行政と地域が担う役割分担を明確化し、その相互協力体制を整備したことにより、二つの農村RMO地域づくり協議会が発足して活動を始めたことや、山車巡行祭においては四つの山車保存会と伝統文化を継承している鯉沢ばやし保存会との協働により盛大に開催することができました。加えて、用途を限定しないことで、地域にとって使いやすい地域力創造交付金による支援や、地域づくり推進組織事業補助金の制度を設けて、地域として自立できる力を持つことができる支援制度を創出してきました。これらの施策により、協働が進んでいるものと考えています。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい。再質問になりますけれども今課長が挙げてくださったものの他に、私はこの情報をいかに共有していくかっていうことなんですけれども、こちらの方もホームページが改定されましたり、あと投書箱などがありましたりで、そのあたりについてはちょっとどれぐらい進んでいったのかっていうこともお伺いしたいのですけれどもいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町としまして、その情報を発信していくそういった形でホームページの方はリニューアルを行いましたそのような中で、各担当課からもそのホームページの内容をさらに充実したような形で日々更新、またその内容を検討しているところでございます。また、地域の方々から意見をいただく中では、投書箱やまた町へのホームページに対してのメールでしょうか、そういった形での問い合わせにつきましては、関係課の方につなぐ形で回答等を出している状況、取り組みを行っております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい再質問になりますけれども、今課長の方からメールなどで町民の方からの声を聞いていてそれを実際に施策に動かしたり、解決をしているというような回答だったんですけれど

も、メールですねちょっと個人的なこともあるかと思いますがけれども、差し支えのない範囲でメールによって町民の方に返されたということ、そのあたりについての評価は今までよりもかなり進んできているのか、またどのようなところが進んできているのかそちらをお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町に対しましてメール等での問い合わせ意見等、また質問等もございしますがその中で、各関係課からの回答を丁寧に回答する形で送ってくれた方には答えております。またその中で、一つ挙げますとこの新しい庁舎の中でいろんな使われ方がしている駐車場のことなんかにつきましても、その使われ方について回答をする中で役場内においても駐車場の使い方等につきましても周知をしたり、またそういうような形で適正に運営していくようなところが役立っていると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はいその先ほどのメールや投書っていうのことなんですけれども、プライバシーに影響のない範囲で一般的にホームページなどで、このような問い合わせがあってこのように解決したってというようなことを公開することはできないのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。町が取り組んでおります施策や、また事業等に対して周知が必要と判断すれば出していくことを検討していきたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はいでは（2）の方の質問に移らせていただきます。反対にですね、課題として挙げられたもの、また第3次総合計画の方にも引き継いでいく必要があると考えられたものは何かお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。住民との協働による第3次総合計画を策定するため、本年7月に各地区を巡回し、町づくりワークショップを開催しました。その際、多くの地区から新型コロナウイルス感染症をきっかけに、地域のイベントや行事が多く中止となり、一度中止となった行事の再開が難しいという意見が出されました。また、各自治会における役職とその役割が多い事などが相当な負担に感じられており、これらの要因で、若い世代が

自治会組織に加入しないという状況が各地で見られました。こうしたことから、町と協働を行っていく自治会の組織運営を難しくしている状況が課題であると考えています。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

再質問になりますけれども、ちょっと（3）の質問にもあるんですけどもその自治会の件に関して、これからどのように解決していくのかちょっとまだ決まった定まってないところもあるかと思えますけれども今現在わかる範囲でお答えいただければと思います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。これからの自治会の組織運営、今回の各地域を地区を巡りましたワークショップでも意見が出て、出てきました。今後も町といたしましては、町民の皆様から意見を聞く対話集会など、またそういったところから意見を幅広く集める中で、今後の進め方、また取り組み内容などを研究していきたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

ちょっと自治会のことに関しましてはちょっと今回の一般質問とは少しずれてしまうのでちょっと先ほど出た対話集会の件ですね、こちらの方なんですけれども、課長さんは挙げられなかったんですけども、私のところに町民の方から寄せられた意見といたしまして、対話集会などで言った意見、このような意見がどのような形で考えられてどのような結果になっているのかっていうこのプロセスがああのプロセスもわからないし、また、結果としては見えるんですけどそれ施策となって広報などに出ればそのプロセスがわからなかったものとしては、結果もちょっとよく見えづらい、この自分が言った意見がどのように扱われたかがわかりづらいというそういったご意見がいくつか寄せられておりますが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。対話集会につきましては、町政に対しての意見を交換する場であると考えております。これまで行ってきた町の行う事業説明や、これから展開していく施策につきまして、町長が説明を行って、それに対して意見交換を行う場と考えております。こうした中で、対話集会では、行われた後にその議事録等は出された意見と、その回答につきまして町のホームページで掲載する形で町民の皆様には周知、お知らせする形をとっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1 番議員（宇田川朱恵さん）

はい。なかなか要望を言うと言うのと、意見を交換するっていうところが非常にわかりづらいところもあるかなと思います。それが対話集会なりほっとミーティングなり、ワークショップなりが、何を目的にしている、ゴールがどこなのかっていうところが少し見えづらいのかなという感じを持ってまして先ほどありましたやっぱりワークショップでも、コロナがあったので致し方ないところもあるかと思うんですけども、以前もやったしかし、解決は何もされていないまた、課題だけを言わされてもってというような声がやっぱりありましたので、その辺の何をゴールにして何を目的にしているのかっていうところをもう少し明確にさせていただけると町民の皆様もわかりやすいのかなと感じます。

再質問になるんですけども、ワークショップなんですけど、やはり参加した方がちょっと少なかったりですか、あと若い方があまりいらっしゃらなかったりっていうような声を聞いています。そのような中で、出なかった方からの声っていうのをどのように拾っていくのか、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。各地区を巡って行われましたワークショップですが、来られなかった意見の拾い方、また聞き方になりますが、やはり今現時点では、投書箱やメール等による意見で直接伺う他ないのかなとは考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1 番議員（宇田川朱恵さん）

はい、それではですね、(3)の方の質問に移らせていただきます。あと、再来年になるかと思うんですけども、第3次総合計画に向けて今地域ワークショップを回っていただいたりとして動いてくださっているかと思っておりますけれども、第3次総合計画には協働について具体的にどのような計画を盛り込む予定でしょうか、お伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。現在、第3次総合計画こちらの基本構想につきましては、各担当部署において、総合戦略個別カルテなどを作成した後に、骨子案が完成する予定です。こうしたことから、現時点において具体的な計画についてはまだ決定していませんが、基本目標として、地域から始まる協働の町づくりや、笑顔あふれる地域ネットワークの形成など、協働の機運を高める計画を盛り込んでいきたいと考えています。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1 番議員（宇田川朱恵さん）

はい。再質問になりますけれども、やはり地域というものがすごくキーワードになってい

るっていうのは、富士川町の場合はすごく感じるんですけども地域がですね、先ほどもおっしゃったように人口が減っていく中で、一番地域が地域の大きな課題としてはやっぱり防災が挙げられると思うんですけども、この人口が減っていったって高齢の方が増えていく中で、若い方たち残された少ない若い方たちで回していくっていうことが、第2次総合計画のときよりも非常に難しくなってくると思うんですね。そのあたりについてはだからどうしていったらいいのかっていうことはやっぱり、多くの市町村で全く回答は出ていないと思うんですけども、そのあたりについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。今後の地方自治会そういった運営につきまして、高齢の方が多くなってきます。また若い人たちが少なくなってくるこういった中でこれまで行ってきた取り組みや地区の行事等、これを全て若い人たちに担ってもらっていくのであれば、先ほどの答弁でもありましたとおり、やはり役職が増えることに相当抵抗ないしは負担を感じているというところですので、おそらく、これからは自治会全体の動きとしては、町も入る中で、全体ですね、若い人だけでなく、そこにいます高齢者の方も一緒になる中で、どのような方策、やり方がよろしいのかは、これはすぐに答えが出ないかもしれませんが、随時考え続けていく行かなければならないと思っております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい。あとですね、第2次総合計画のときはですね、時代的なものがあると思うんですけども少し協同に対して目標と施策が同じであったり、例えば住民参加の拡大っていうのは目標にもあるし施策にもあるんですけども、この住民参加の拡大というものが具体的に何を指しているのかっていう、ちょっと漠然としている部分もありました。第3次総合計画ではやっぱり一歩も二歩も進んだこの協働っていう形をとっていかないと、非常に町自体が行き詰まってしまうっていうところは見えてますしやっぱり若い方たちも非常に役の負担が重いからだから、やっぱり都市部に行きたいっていうよう言って実際に引っ越した方も私は知っていますので、そのようなところで、もう少し具体性を持った計画っていうものを立てていく必要があると思うんですけども、そのあたりの具体的に立てるかどうかっていうことについてはいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。それ再質問でしょうか。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

それ再質問で質問でお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。先ほどの第3次総合計画の策定の中の答弁でも答えましたが、現在総合戦略の個別カルテこちらを作成している中で、これを総合的に判断またはその内容について組み立てることの中で、そういった具体的なその協同の目標そういったものが表現できるのか、その部分について検討を進めたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい。では再質問になります。ぜひもう少し具体的な計画を立てていただきたいと思いますが、ちょっと別の観点からなんですけれども、自治会地域という観点ものすごく大切だと思うんですけれども、別の観点からですねこれ私のちょっと政策的な意見になるんですけれども、例えばですね今行っている審議会で公募委員を募集しているところもあるんですけれどもまだ募集してないところもあったり、あとやっぱり全国的に課題となっているのが、このような審議委員会にPTAの会長であったり区長さんであったりという当職が、やっぱりすごく多いということで、その当職の方が審議委員会で話題にされる課題にされることについて興味があるかどうかという、必ずしもそこがイコールではないということが全国的にもちょっと上がっております。そのようなこともありますので、審議会ですべて公募委員などを設けるなどという計画についてこちらについてはどのようにお考えでしょうか。再質問になります。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。審議会につきましては、審議会を設置する条例や要綱などで公募することが規定されているものは、既の実施しております。ただ全てが公募を規定する、しているわけではございませんので、公募していない会議等につきましては、会議の内容によりますが、アンケートなどを採る形で町民の方から意見を聞いてそれを資料としている。審議会もあると聞いております。公募の規定が全くできないそういった会議に直接参加できない会議で、ありまして、会議を傍聴する形はございますし、また議事録も公表しているものもありますので、寄せられた意見全てに対する回答という形では出しておりませんが、現在のところ、今ある制度等の中で対応していきたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい、やはり審議会などに参加することで町政に参加できたというような町に対して良い思いを描くっていい思いを持つってのは若い世代にとっては非常にそういうことがある、市川三郷でも子ども子育て委員に実際現役の大学生が参加しているということもありますので、そういった方たちが大学は遠くに行ってしまうと、戻って来てくださるって可能性にもつながるのでぜひそういうところからも審議会などでぜひやる気のある人に

席を作るということでぜひ公募考えていただきたいと思います。

ではですね、次の質問に移らせていただきます。傍聴席の方は次の2枚目の方の資料を、ご覧ください住民自治基本条例についてなんですけれども、やはり今回ですね町民の方から様々なご意見をいただいたり、また私も3回協働について一般質問をしていますので、町民の方からいろいろな声を聞かせていただきました。町の中で様々な活動が非常に活発になっているとも感じますし、そのような活動を始める方からいろいろ相談を受けるということも私もあります。やはりちょっと思いましたのが、住民の方たちも対話集会などに出て要望とか陳情っていうような形になるっていうよりも、もっと町と一緒に行動も実際にして、で良いものを作っていきたいという思いが非常に強くなっているのではないかと思います。そのときにですねやはり基本的なルールとなるのが、自治基本条例これは市町村によってまちづくり条例など名前は様々なんですけれどもこれが自治基本条例というものになります。その基本ルールとなる自治基本条例をまず制定するっていうことが協働の第一歩としては、非常に前提になるのではないかと考えております。先ほどやっぱり協働とか参加参画というところの定義が非常に曖昧で人によって違うものを想像しているという可能性もありますのでこの辺りきちっとやっぱり定めて、いただく必要があるのかなと思います。では、(4)の質問です。自治基本条例の制定について、町のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまのご質問にお答えいたします。自治基本条例を策定することについては、住民自治の推進や調整運営の基本方針を明確にする手法の一つと認識しています。また、条例の内容を町民全体で十分に共有し、運用における実効性を確保することが求められていると考えています。こうした中、町ではこれまでも、住民の皆様との対話や協働を基盤とした町づくりに取り組んできており、現在の運営体制においても一定の成果を上げてきていると考えています。

こうしたことから、本町では、現時点での自治基本条例を策定することは考えておりませんが、既存の制度を活用し、町の皆様との信頼関係を基盤に、協働のまちづくりを推進してまいります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい再質問になりますけれども、今までの協働そこを進んできているというだから今までの形でいくというようなお答えもあったかと思うんですけれども、そうはいつでもやっぱり自治会だけでは、今まで区長さんが核となる自治会だけでは非常に背負っているものが重くなっているとは思いますが、そこを一般の方たちが、それぞれ興味がある方たちまたは若い人たちが忙しい時間を割いて、これと同じような形や自分たちのその社会課題を解決するために動いていく場合に、やはり今までのシステムでは非常に難しいところが出てくると思うんです、それはやっぱりDXなどが進んできているのでやっぱりオンライン会議でみん

なでつながれるだってあったり、現地に行かなくても、実際にオンラインでいろいろなところの視察ができるっていうような形にも進んできていますので、そのような方たちが動くということになりますと、今までのあった伝統的なものからかなりはみ出さなければいけないと思います。そういった形で社会が変わってきているのであれば、やはりちょっと基本的なルールというものは必要でそのルールがあるからこそ役場の皆さんも毎回毎回同じような方が同じようなことを質問したり陳情したりっていうようなそういった時間のロスも防げるっていうことも、そういったメリットもあるかと思います。なので、ぜひこの自治基本条例、町のルールとして私は必要だと思っているんですけども、もう一点ですね、自治基本条例を作るにあたって非常にそのプロセスが大切だと言われていることもありまして、町の方から作りましょうというのではなくてやっぱり町民の皆様がこういったものを作りたいっていうふうに上がってくる、その方がいいのではないかという声がありますけれども、もし町民の皆様からそういった声が上がってきた場合、町の方の対応としてはどのようになさるかと答えたいと思いますでしょうか。再質問になります。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質問にお答えいたします。町民主体という形でこういった自治条例、そういったまた必要性などの意見が出てくる、そういった機会、ただいま町が行っております制度とか町長とのほっとミーティングそのような形で意見交換を交わしていく中で、今言われました自治条例の意見などは、その後対話集会やワークショップでもそれぞれ多くの人たちの意見を聞く中で、今後の進め方については、町としても考えていきたいと思っております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はいでは、町民の方から対話集会、ワークショップ、ほっとミーティングなどで声があった場合にちょっと考えていくということだったんですけども、もしそのような声が挙がりましたら、ぜひここから協同という形で考えていただければと思います。

ではですね、(5)の質問に移らせていただきます。協同の一つの方法と言われる住民参加型予算についてなんですけれども、まだご存知がない方も多いかと思いますのでちょっとパネルの方に簡単にまとめさせていただきました。わかりやすくするためかなり大まかなまとめ方になっておりますのでその点はちょっとご了承いただければと思います。私が住民参加型予算についてちょっと着目したなぜ着目したかということですけども非常にメリットが多かったです。まずメリットとして住民が町政に参画する町政に興味を持ってもらえる。さらにですね予算に関われるということは、今まで陳情したり選挙に行ったりっていうことよりも、自分がダイレクトに予算に関われるということは非常にインパクトが大きいと思います。町側としては住民のニーズを知ることができる。もう一つはですね先ほどからずっと話題になっている自治会ですけども、ここが今は住民の声を聞く主要な場であります

けれども、この自治会のシステムっていうのは子ども、若者、女性、新住民いわゆる移住者といえますか、違う町から来た方などの声を拾いにくいシステムになっています。そこが非常に拾いやすくなると、今一番ですね流出が課題となっています、若い女性でこの若い女性の声にターゲットを絞って、若い女性の方を中心にこの予算を作りますという形で意見を聞いて事業化することもできるというわけです。このような住民参加型予算ですけども、こういったものを取り入れていく考えがあるかどうか町の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。住民参加型の予算の方法といたしましては、住民の方々が事業の提案をいただいて、その提案について、住民の投票といいたしでしょうか、などによって予算の一部を決定していくという方法がございますが、投票者が非常に少ないという部分と、一部の住民の方々の意見しか通らない場合と、それから予算の抑制が図れないというような課題も出てきて、これ全国的にも導入が進んでおりません。ですが、都市部、財政力が豊富なところは、当然そういうことやってるかと思えますけども、地方に行くほどないという状況でございます。現在ですと地方自治の制度というのはご承知のとおり住民から選出されました選挙で選出されました、自治体の首長さんが予算編成の権限を与えられておりますし、同じく選挙で選出されました議員さんで構成された議会においても、その予算の議決決定がなされる議会制民主主義でございます。

こうしたことから住民を代表していただいております議会において、住民の意見を反映し住民の意見が反映されているものと果たされているものと考えているございますので、本町では現時点では住民参加型の予算の導入は考えておりません。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい再質問になります。多分今注目を集めていますのが杉並区だと思います。杉並区ではですねテーマを決めまして、昨年が森林環境譲与税の使い道についてで、今年度が防災について町民の皆様とワークショップを行って、そこから予算を事業化し、それを杉並区の方から投票するという形で、住民参加型予算を行っているかと思えます。またですね住民参加型予算という名前ではないんですけども、愛知県の新城市では若者会議というものをしております、そこに1000万円の予算をつけております。実際に1000万円を使うことはほぼなくですね300万円ぐらい、毎年300万円ぐらいで推移しているということなんですけれども、こちらはもう予算枠を始めから決めてしまって、若い方たちが会議によってそれを何に使っていくかを決めるということで、この若者会議に参加した方が、5名が新城市の市役所に就職し1人が新城市の市議になっているという。やっぱり非常に市政に参加する若い方たちが参加するのに対して非常にメリットがあったと言われております。今ですね課長さんがおっしゃいました予算の件なんですけれども、実際に予算を執行しなくても、北海道のニセコ町では予算のプロセスを非常に明確にしておりまして予算の使い道について、

それぞれのプロセスで町民の方が意見を言いやすいような場を作っております。ですから議員を通してというのだと、予算の策定をしている間っていうのは町民の方どういった予算がなされるのかっていうのがわからないんですけども、そのプロセスを明らかにすることでこのような予算を作ろうと思っているというところで町民の方がそれぞれ意見を言えるような仕組みを、北海道ニセコ町であったり岐阜県などは作っております。予算を使わなくてもそのようにプロセスを明らかにするという方法もちょっと住民参加型予算の一つかと思えますけれどもそれについてはいかがでしょうか。はい。再質問で。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。確かにこれまで当初予算、補正予算にしてもそうですけども予算編成過程のプロセスは、当然周知しておりませんし、広報富士川並びに議会広報等で決定事項をお知らせしているということは確かでございます、確かに議員さんがおっしゃるとおり女性の方々、それから若い方々、子どもさん方、それから移住されてきた方という意見が十分行政の方に届いているとは私も理解してございませんし、全てがあるわけじゃないということは理解してございますので、今後の予算編成過程においてどういうプロセスが踏めるかっていうのは、やっぱり今後の課題とさせていただきますので、検討させていただいて方向性を見出していきたいというふう存じます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

はい。答弁ありがとうございました。えとですね、やはり先にも言いましたけれども協働に力を入れてる市町村っていうのは非常に活気がある。特に若い方、若い方で町をおこしていこうっていう、非常に活気があるイメージがあります。ですね町と住民との協働もそんなんですけども、今回このようないろいろな事例を調べていく中で、町民同士がつながるっていうことも非常に大きなメリットがあるなと思っております。若い方と新住民の間、あと、元々ここに住んでいて、ここの伝統をずっと守ってきてくださった方って実は結構対立が起こっておりまして、なかなか交流する機会がないんですけどもこの方たちが同じように審議会に来るですとか、あとほんとミーティングに参加するっていうことでこの方たち同士の交流が生まれることで、それぞれのやっぱ課題がわかったりお互いの気持ちがわかったりということ、そういった効果が実は非常に高かったっていうことも明らかになっております。そのためですねぜひ審議会を公募制にして新しい風を入れるですとか、若い方女性、新住民の方が参加しやすいようなそういった場をぜひ作っていただく、このようなことをお願いして私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告3番 1番 宇田川朱恵さんの一般質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。

なお傍聴者をお願いをいたします。携帯電話の電源を切るか、切っていただくようお願いいたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時13分

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。

続いて、通告4番 9番 齊藤欽也君の一般質問を行います。

9番 齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

それではすいません。私の一般通告を一般質問を行いたいと思います。まず始めに、新中学校校舎建設についてと改めて、なぜこの時期にこのような質問をするのかということ若干説明お話をさせていただきたいと思います。令和4年1月に今の望月町長が就任されて、それまであった旧増穂商業跡地の校舎を新中学校にするという計画を白紙に戻しました。その後、住民との懇談会、あるいは保護者、あるいは児童生徒のアンケート等を取りながら、新しい中学校のあり方、あるいは統合の中学校の場所等について議論をまいりました。私は非常にその中で、場所については、今の現増穂中学校敷地ということについては多くの方から同意を得たものだというふうに考えております。しかしながら、校舎を改築するのか、あるいは新築するのかについては、大きな財政が伴うことから、賛否両論あったのではないかなというふうに思っております。しかしながら、そうした中で、私、非常に記憶に残っているのは、児童生徒のアンケートの中では、校舎については改修をして、大事に使った方がいいという意見が一番多かったかなというふうに思えて覚えております。しかしながら、保護者、あるいは教職員、その方たちの総合的な意見として、新築が望ましいと令和4年11月の教育総合会議において、望月町長が最終的に新築をして新築の方向性で行くという判断を下しました。その後ですね、概要の設計業務そして今年4月頃に終わり、今現在、来年度からの具体的な実施工事実施に向けて、詳細設計が現在行われております。非常にここまで、もう具体的に新たな校舎建設に向けての動きというのは進捗しているというふうに認識しております。そしてまた、来年度開校予定の富士川中学校これに向けても例えば、さきの定例会では、新中学校の校歌作成業務の委託契約、委託についての可決、あるいはそれ以前には、生徒の制服をどうするのか、かなりのお金がかかりますけれども、これも町が補助金を出して、購入しようといったような決定、そういった細かいことも含めて、へえ既に現時点まで来てるんだと認識しております。ただ、ここにきてこれを質問する一番大きな理由は、9月定例会決算審査の過程で本年度、昨年度ですね、生徒の数、誕生した生徒や子どもたちの数が50人という数字が出てきました。これ私議会報告という形で、チラシに衝撃的だったんで、その数字っていうのを載せて載せましたけれども、現在は、小中ともですね、おおよそ1学年100人あるいは100人ちょっとの1学年数値なんですけれども、昨年の出生数50人という、おそらくこの数字は今後も続いていくんだろうとこれ以上下がって本当に困るんですけども、でもこれは現実だということを踏まえたときに、今のままの学校

規模で、この建設計画を進めていいのかということを疑問に思います。極端に言うと、作るにしてももっと小さな規模で内容の豊かな学校建設ということを考えることも可能ではないか。例えば10年後になれば、昨年生まれた子どもたちがちょうど小学校4年生になります。それが50人とその後の子どもたちの数はどうなるのか、これは今からのことですからもちろん予測はつきませんが、少なくとも10年たてば、その数字っていうのは明確に出てきます。ですから、一旦ここは新校舎建設については中断をし、10年、あるいは5、6年でもいいです。様子を見れば、この町の将来、あるいは子どもたちの将来の数っていうのが明確になってきます。そこで再度見直しをしてもいいのではないかというふうに思っています。とにかく、現在聞いているところは約30億円前後の大きなお金がかかります。そのことを踏まえたときに、将来の町の財政負担を考えたとき、一旦とどまるということを考えるべきではないかと思いますが、その点について町の考えを伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。増穂中学校の校舎は建築から50年以上経過し老朽化が進んでおり、令和元年度に策定した学校施設長寿命化計画では、長寿命化改修を行わず、必要な改修を行い、築60年をめどに改築を検討するとしております。また、現在人口減少により、児童生徒数は減少しておりますが、県が進めている小学校の25人学級が中学校でも導入された場合は、10年後であっても、必要とする校舎の面積は現在と変わらないことも推測されております。加えて、少人数や個々の対応が増えてきており、子どもたちの実情に合った施設で学習することが求められています。こうしたことから、引き続き計画どおり新校舎の建設を進めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

再質問をさせていただきたいと思います。現在、中学校は新築しようという話なんですけども、同じく建築年数がほぼ同期の小学校の問題も抱えております。これも含めて考えたときに、やはり今一度全体構造の見直しということは必要ではないかと思いますが、その点についてお伺いします。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。現在増穂小学校では、やはり老朽化に向けていろんなところの改修が必要となっておりますので、今年度予算を承認していただきまして、詳細な設計を行って改修をするというような状況で進んでおります。そういったように各学校に応じて、あの改修や中学校は統合を機に、新築というような計画になりましたが、個々に応じた改修等を進めてまいりたいと計画しております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

再度質問したいと思います。小学校についてはですね、改修と中学校は統合を機にという話で、それはそれでよろしいんだろうと思います。説明としては、ただそうなったときに今度は小学校も統合するよという時期がいずれそんなに先がないときに来るだろうと、その点もやっぱり含めた計画が必要だろうしこの間、山梨県の長崎知事が富士山鉄道構想、いろんな問題もあったということでもって、撤回もされました。そして新たな構想を打ち出した。町もですね、進めてきたということをもってそれにこだわった形でやることは、やる必要はないのではないかと。改めて再度練り直しても、確かに1億円からの設計に係る予算で既に使っております。ですが、増穂商業の跡地への改修計画のときもですね、約5000万近くの設計予算使ってきました。大きな事業なんで、そして全体的に今後もその小学校、あるいはその他の施設も含めての事業を控えている中では、やはり今一度この大型事業ということを踏まえて検討し直して、もらいたいというふうをお願いして、この中学校の問題については終了したいと思います。

次に二つ目の町民体育館建設について質問したいと思います。町民体育館は既に皆様もご承知のとおり、前の町政のときに、町民間の反対もかなり根強くあったということもあって、非常に大きな体育館を建設しようという計画ではあったので、一旦棚上げになりました。それはやっぱり財政問題と、ここが一番のネックだろうと私は思っております。本町の先月号ですか先月こないだの新しい号の中でも、7大事業についての債務や債務償還計画的な表つてのが配ら配布されました。町民がどこまでそれを理解されたのかそこは甚だ疑問な点もありますけれども、一応町民にとにかく公表するということが行われてきました。先ほどの中学校の建設ではないんですけども、非常に大きな事業を今抱えている中で、何であえて今ここで町民体育館について議論をしようとしているのか。それはすいません先月、前回の議会において、町民体育館の候補地選定予算調査予算つてのは50万ほどもらえておりますんで、既に町は具体的に動き出してるんだろうという認識を持っております。それを踏まえた上で、なんで今この時期に、しかも大きな事業を控えている中で、この体育館建設を進めようとするのか、その理由を伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長 井上誠君。

○生涯学習課長（井上誠君）

ただいまのご質問にお答えします。体育館につきましては、町民の皆様から、社会体育及びスポーツ環境の場の確保について切実な声や要望を多くいただいているところでございます。こうした中、10月22日に体育館建設基本計画検討委員会を開催いたしまして9月定例会で、建設候補地選定業務についてご議決いただいたことをご報告いたしますとともに、望ましい地域や規模、さらに今後のスケジュールなど協議を行ったところでございます。

このことから、今後、候補地の選定を進める中で、規模や建設費費用などについて、現実かつ具体的にコスト計算を行い、町の財政と入念にすり合わせを行った上で、体育館建設に向け、着実に取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

町民からの切実な要望というお答えなんですけども、確かにあの体育館、私もないよりはあった方がいいと富士川町というか旧増穂町民にとっては町民体育館ってのありました。鰍沢地区にはなかったんですけども、その中での伝統的なスポーツの振興が図られ、大きな成果を所信表明の中の町長も町村の部で13連覇という話もされました。この町は比較的スポーツに対して非常に熱心で、それが町民の輪を作るといふ実績もあります。しかしながらですね、そうは言ってもお金の問題があるわけで、本町には町民体育館ほど規模が大きくありませんけども廃校になった学校等の体育館も点在しております。そういったものを利用して、差し当たって財政がある程度好転するまで待つという方法もあるんだろうとまた町民に要望があったとあれば、町民にもその説明をすべきではないかと思うんですその点について、再質問したいと思います。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長 井上誠君。

○生涯学習課長（井上誠君）

ただいまのご質問にお答えします。旧校廃校になった各学校の体育館につきましては現在もご利用いただいております。今現在本当に町民の皆様方、特に社会体育館で活動されている皆様方にはご不便を強いておることがございます。そのために増穂商業高校の体育館をお借りしまして、現在活用していただいておりますところでもあります。ただ増穂商業の体育館につきましても、県が今後、ずっと貸していただけるという確約はございません。その増穂商業の体育館をお返しすることもいつになるかわかりませんが、数年でお返しするというような形も視野に入れながら体育館の建設は並行して進めていくべきだということで今、建設について現在検討をしておりますところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

まあね、確かに体育館を使う人たちが不便をかけているということは私も重々承知してまず私もスポーツをそれなり少しながら趣味でやっておりますから、スポーツをする立場としても、いろんな施設っていうのはやはり必要なんだろうということは重々感じております。ただ一言言っておきたいのは、要望があったから何とかしてくれということで、そのままそれを受け入れるというだけではやっぱりいけないだろうかと、その町の財政等も含めた説明も同時にされる必要がある、必要ではないかというふうに思います。それは意見としてはしていただいて、次に二つ目の具体的実際にもこうやって調査を始めていくと選定業務があれば多分それを検討委員会にかけて、一応、おそらく候補地どういう候補地があるのかわかりませんが、将来に向けて抑える建設後、抑えるということも必要だろうし、内容の詰めも必要内容を詰めていくと、今言った以前あったような大規模な大会じゃないでしょうけども、それなりのものを考えるという作業にも入るんでしょう。その点を含めてですね、

今後のスケジュール、現在考えているスケジュールのについてお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長 井上誠君。

○生涯学習課長（井上誠君）

ただいまのご質問にお答えします。体育館建設のスケジュールにつきましては、今年度中にいくつかの候補地を選定する予定であります。それを受け先ほど申し上げましたが、体育館の規模、建設費用などについて、現実的かつ具体的にコスト計算を行い、町の財政状況と入念にすり合わせを行った上で用地を決定してまいりたいと考えております。その後、建設に向けたプロセスを進めるにあたり、基本計画検討委員会で検討を行った後に、議会や地元を初めとする町民の皆様に必要な説明会を行い、令和15年度を目処に竣工できるよう進めてまいりたいと考えておるところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ありがとうございます。前半の方を聞いているとスケジュールがあんまり出てこないなという感じだったんですけども、最後のところで令和15年竣工というお話ありました。令和15年というと、あと7、8年ということになるのかなと思いますね。財政を見極めという話もありましたけども、7、8年という時期は、中学校が一応予定では令和9年でしたか、ほぼこのままいけば完成させると当然推進債を使ってということなんで、一時的な借金をするとそれが3年、あるいは5年の末ということになっていくと、ちょうど一番大変なときにまた体育館建設かよという話になると思うんですけど、財政を考えられながらという話だったんですけども、そういうことも含めて今言った15年という話は出てきているのかどうかを伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長井上誠君。

○生涯学習課長（井上誠君）

ただいまのご質問にお答えします。リニア中央新幹線の供用が令和14年度以降となるという見通しが立たれました。されましたJR東海からは公共補償として補償できる期限としては、長くても供用開始までということでございますので令和15年度竣工としたところであります。その間様々なプロセスがありますのでそちらの方を順々に実行していくというところで考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

再度質問します。要はJRの保証期間というお話なんで一応、再度ちょっとお伺いしておきたいんですけども、再質問で補償の段階で補償金ってのは、現段階でどのくらいのものだというふうに予想予測されているかをお願いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長 井上誠君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ただいまのご質問にお答えします。補償額につきましては、現在まだ示されておりません。公共補償につきましては、建物の規模や機能並びにその新しく建築基準法ですか、基準法にも定められた追加分が上乗せをされてまいりますので、一般保証よりも多くいただけるというところで考えておるところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

J Rの保証期間っての最長でも建設までと、今の段階では14年あるいは15年ということだろうと思うんですけども保証期間が延びれば、もうちょっとじっくり検討するというのもできるというふうに思い理解します。今のJ Rの進捗状況は本当に予定とおりにいくかどうかという実は私も乗りたいんですけども、私が乗ろうと思ってたときよりもさらに10年延びるということではいつなのか心配になっております。今後ですね、いずれにしても財政の問題がありますので、財務課ともよく協議をしながら、健全な形でやっていけるように努力していただきたいとあまり焦らないでということだけお願いして、この体育館については終了したいと思います。

はい。次に最後ですけども、三つ目、景観条例についてという質問をしたいと思います。景観条例、これ本町にもあります。平成27年作られております。これの経緯っていうのは、平成16年に国が景観法を策定し、それに基づいて各市町村が順次策定していったうちの町でも27年に条例を制定する前確か3、4年その準備期間を設けて、委員会等々で議論をして条例案を制定したという経緯があります。これはもう皆さんも既にご存知のとおり歴史や文化、自然遺産というのをやっぱり守っていこうというのが今の時代の流れでして、特に太陽光発電等々含めた地域の乱開発が行われて景観を非常に損ねると、あるいは住民生活も影響するということが発端だったんだろうと。早くは京都だ、あるいは歴史的な地域では歴史を守りたいと町の景観を守りたいということで独自の条例を制定したところもいくつかあり、ありました。そういったことを踏まえて本町にも作ったわけですけども、実は先ごろ最近ですね、大法師公園の麓、大法師山と言うそうですけども、その中腹に建物が建ちました。見ると、今日あたり天気の良いれば、テカテカ光るんですけどもそれを見た住民たちから非常に景観が悪くなったよというお話がありました。それが発端ですね、今回こうやって質問いただいているんですけども確かにあの建物自体について、まず言うておいたらそこはもっと鯉沢住宅の住宅があったところで町が売却した土地です。ですから、おそらく建物の建築基準等々では、一切問題なく、いったんだろうと思う建設も認められて、だったんだろうとは思いますがけれどもそういったことを見て、改めて景観条例をちゃんとしなくちゃいけないのはいけないのではないかという思いがあります。この建物は条例にも違反しないだろうし、あるいは建築やその他にも批判していないものだと理解しておりますけれども、一応ですねこの件について、景観条例あるいは規則等々にのっとってやられてきたのかどうか、まずそこだけ答弁をいただきたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまのご質問にお答えいたします。富士川町景観条例につきましては、平成27年度に景観法の規定に基づき制定したところであります。条例では、建築物等に関わる配置や外観などの基準を定め、周辺環境に影響が大きいと考えられる一定規模以上の建築物等については、届け出を行うこととし、景観審議会にて審査することとしております。また、大法師山周辺については、届け出の対象となる建築物は高さが13メートルを超えるもの、または床面積が500平方メートルを超えるものとなっております。大法師山周辺では、届け出の対象となる規模の建物はありません。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ありがとうございます。要は景観条例の規則等々に抵触するようなものはないということなんだろうと思います。私が心配しているのは、やはり今のお話でもそうなんですけども、基本的には建築基準法があって、それを多分当てはめて作られたと。これが例えばどっかのね、街中で町のうちの町も例えば、観光地例えば河口湖あたりの場合には例えばコンビニがいくつかありますけども、やっぱり色を、この辺にあるようなコンビニとは色彩も外装も変えてると、多分これ、コンビニ側の業者がやってるか配慮してやったのかどうかわかりませんが、いずれにしてもそういう配慮っていうのは必要になるだろうしできた、既に建っているものですから今更どうにもなりませんけども、今後ですね、対象地域でなくても、そういったことについては一つ一つですね、やっぱりチェックできるような体制ってのは作っておくべきではないかと思うんですけど、思います。

あと二つ目の質問ですけども、これまで本町において、この景観条例これに該当するあるいは引っかかるような案件ってのはあったのかどうかちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまのご質問にお答えいたします。富士川町景観条例に基づき、事前協議の対象となった事例は4件あり、最近の事例は、鰯沢地内におけるリニア中央新幹線の電力供給に伴う送電線工事となります。協議内容は、鉄塔の高さが40メートルを超える計画で、景観形成基準の高さを超えた工作物でありましたが、鉄塔の線形が景観に配慮した線形であり、外観は周辺の風景と融和した色彩を採用する計画であったことから、景観審議会において認めた案件となったところであります。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ありがとうございます。4件ということで最近では鉄塔と、多分この鉄塔てのは高下地区

か何かだろうというふうに思っていますけれども、今のお話聞いても、要するに建築基準の高さの話なんですよね、この景観条例で今回これは認可が必要だということで多分あったから審議会かけたという経緯があるんだろうと思いますけども、要はこれ3番目の質問に今度移行させていただきますけれども、今後ですね、景観条例、これをもっと有効に自然や文化や歴史、あるいは地域の風土を損なわないためにはより有効的に活用するためには、例えば地域、例えば平林だと棚田っていう風景があるわけですけども、ああいうところを例えば特定建築基準とかそういうことを抜きに、新たな例えば許可する許可制、あるいは許認可制度に移行して、ちゃんと委員会で審査するといったような厳密な対応が必要なんだろうと私は思います。単に届け出で済むような形ではない方法っていうのを一方で取ることができるんじゃないかというふうに思いますが、そういうことも含めた町の考えを伺いたいです。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまの質問にお答えします。富士川町景観計画では、町内全域を景観条例の対象エリアとし景観の保全に努めてきたところであります。これまで、景観形成の基準に基づき、景観の維持保全を行っていることから、新たに適用区域等の設定は必要ないと考えております。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

私の意図、意図が私の話したことがあまり受けとめられてないのかなというふうに正直今の答弁で感じます。やはり歴史や文化、自然風土、これを守っていかなくちゃいけない。確かに太陽光発電の場合、ある一定の規模であれば登録制登録あるいは認可制になるんだろうとこれはあります。そうではなくて、そういうところから漏れた分も含めて、特に重要な地域っていうのは対応考える必要があるだろうと。その一例として、例えば認可制をそこには導入するといったような基準設定があってもいいのではないかという質問なんですけれども、いま一度お答え願えればと思います。再質問です。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまのご質問にお答えします。先ほどご答弁しましたとおり、これまで景観の維持保全を行ってきている状況でありますので、新たに適用区域等の設定は必要ないと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

新たに特別な措置は講じないということで、なかなか断固な答弁をされたなと思っておりますが、並行線を辿りそうなので、ここで私の一般質問は終了したいと思います。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告4番 9番 齊藤欽也君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。なお、再開は午後1時といたします。

休憩 午前11時49分

再開 午後 1時00分

○議長（堀内春美さん）

休憩を解いて再開します。

また、笠井修選挙管理委員会委員長には大変お忙しいところ、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

それでは、通告5番 4番 深澤一幸君の一般質問を行います。

4番 深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

それでは私の一般質問をただいまより始めます。

今回、2年前の令和4年9月議会において、学校給食の無償化についての質問をさせていただいた回答を受けて、改めて質問をさせていただきます。大きな1番として、給食費の無償化についてお聞きします。前回は述べさせていただきましたが、子育て世代にとって経済的負担を軽減させることができれば、少子化対策、ひいては人口減少問題の一助になるのではと考えております。

学校にかかる費用の中でも、給食費の割合は決して低くなく、大きな負担となっているはずですが、このようなことを踏まえ、義務教育である小・中学校において、給食費も無償にするべきとの思いでいます。農林水産省の食育基本法第5条では、子どもたちの食育食育における保護者教育関係者の役割は、子どもの食育の推進に関する活動に積極的に取り組むよう行わなければならないとあり、また、学校給食法の目的として、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で、学校給食は重要である重要な役割を果たすものであるということに鑑み、学校における食育の推進を図ることを目的とするとあります。そういうことから、町では、学校給食は教育の一環として捉えられているのか伺います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達を促す他、食を通じて地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、また、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解する場であると考え本町においても、栄養教諭による定期的な給食指導を行うとともに、地産地消給食の実施や郷土料理を提供し、地元の食材と特産品の魅力生産者の方々の思いを学んでもらい、食に対する理解と関心を深めてもらうよう取り組みを行っているところでございます。こうしたことから、町といたしましても、学校給食は教育の一環であると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

町でも学校給食は教育の一環として捉えられているということがわかりました。では、教育の一環ならば、義務教育における授業料無償教科書代も無償と同じ扱いで、給食費も無償になることが望ましいと私は考えます。

次の質問に移ります。これまでの学校給食費無償化の一般質問の経過を見ますと、町は必ず給食法の答弁をしていました。学校給食にかかる費用負担は、学校給食法において、給食施設施設などの維持管理費等、調理などに要する人件費は自治体の負担とし、それ以外の食材費は保護者の負担と定められていると同じように答弁をいただいております。国の見解として、自治体の判断によって、給食費の一部を補助することも全額補助することも否定するものではないと言っております。それでは二つ目の質問になります。町が将来的に給食費を無償化する場合の財源についての質問をいたします。財源はどのように確保するのが望ましいか伺います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。給食費の無償化の財源について、昨年度の文科省の、学校給食の無償化を実現する各教育委員会における取り組みの実態調査によりますと、全国の無償化等を実施している自治体の財源については、自己財源66%と大半を占め、その他地方調整、地方創生臨時交付金や都道府県からの補助、ふるさと納税等の寄付、というような結果になっております。現時点では、今後の国や県における交付金や補助金等の財源措置は示されておられません。このことを踏まえると、学校給食の無償化の実施に係る財源は、自己財源を基本とし、ふるさと納税などを活用できる財源を充てることが考えられます。

しかしながら、給食費に係る制度設計は本来、地域の特性に関わらず、国の責任と財源により実施することが望ましいと考えておりますので、国に給食費の無償化に係る財源確保を要望していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

私が調べたところですね、県内においては完全給食、ごめんなさい間違えました。県内においては完全無償化になっているところは、北杜市・笛吹市を含む17の自治体、期限付のところは、山梨市・中央市を含む6つの自治体、一部補助のところは富士川町・大月市を含む4つの自治体となっております。

また、私が各自治体に確認しましたところ、年内期限付きの自治体の中には、今年度中まで延長し、今年度中のところも既に次年度を実施しますというそういう予定をしているところもあります。全体的な流れは無償化に進んでいると思います。さらに2年前の給食費無償化の問題に、質問に対して、町長は答弁の終わりに、今後研究を進めていきたいと考えております。という答弁をしていただきました。あれから時間も経過し、状況も変化してござい

す。財政に影響する給食費の無償化は非常に難しい案件であることは十分承知しております。今現在、富士川町では第2子の児童生徒には、給食費は半額、第3子以降の児童生徒には給食費を免除しております。より一層の子育て支援策として、学校給食の完全無償化を実施すべきと考えます。再質問です。町は今後給食費の無償化についてどのように考えていくのかをお聞かせください。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまのご質問にお答えいたします。町では県内トップクラスの子育て支援を目指し保育料の無償化や在宅育児応援給付金、学校給食費免除制度など子育てに関わる支援を積極的に取り組んでまいりました。しかし近年の物価高騰により、子育て世帯にも更なる経済的負担が重くのしかかってきております。このような社会情勢のもとでは、給食費の無償化は、子育て世帯の負担軽減に非常に有効であると考えます。

こうしたことから、町といたしましては、更なる子育て支援といたしまして、来年度から給食費の無償化を実現したいと考えています。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

非常にありがたいお言葉をいただきました。前回見解に県下に先駆けて、一部補助している状況に対して、私は無償化に関しては、いささか交流を走って愛しているような感があると申し上げましたが、無償化が実現となれば、子育て支援の実現がさらに図られ、子育て支援の町富士川町になることでしょうか。

よろしく申し上げます。以上で1の質問事項は終了いたします。

大きな2番に移ります。こちら令和4年9月議会において質問させて回答いただいておりますが、公立中学校の部活動の地域移行についてお聞きいたします。前回の答弁では県は令和4年6月に、休日部活動の地域移行に向けた市町村連絡会議を立ち上げ、令和5年度から令和7年度までの3年間で地域移行を進めるとしております。それを受けて、今後町では先進市町村の事例と近隣市町村の動向を確認し、地域移行に向けたガイドラインの作成、アンケート調査に向けた準備を進めていきたいと考えておりますと回答をいただきました。そこで1の質問です。町は地域移行に向けたガイドラインの作成、アンケート調査を実施したのか伺います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。部活動の地域移行について国のガイドラインでは、令和5年度から令和7年度までの3年間で改革推進期間として、地域連携地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて、可能な限り、早期の実現を目指すとしております。中学校部活動の地域移行につきましては、昨年12月に県が策定した山梨学校部活動及び山梨地域ク

ラブ、クラブ活動のあり方に関する総合的なガイドラインに沿って進めることとしています。本町独自の取り組みとしては、部活動地域移行推進委員会を設置し、学校や地域の課題を共有する中で、地域クラブ活動への移行に向けたロードマップを作成し、取り組み内容やスケジュールを概ね、概ね定めたところであります。今後、ロードマップで示すスケジュールにより、試行的に地域移行の部活動を実施した上で、必要に応じてアンケート調査を行いたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

再質問です。町が作成したロードマップは、令和7年度までなのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまの質問にお答えいたします。本年度第2回目を開催いたしました、富士川町部活動地域移行推進委員会において、令和8年度までのロードマップを作成し、内容を検討して、ロードマップの原案が承認されたところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

先ほどの答弁の中で、必要に応じてアンケート調査を行うという回答であります。移行前移行後には相当を超える想定を超えるような問題が生じてくると思います。そのときは問題を解決すべき方法の一つとして、アンケート調査は必要になってくると思います。ぜひ実施してください。お願いします。部活動の地域移行について、新聞やネットなどの基準を見ますと、メリット、デメリットが明確に出てきていると思います。様々な状況の中で、これだという着地点が見つからないのが現状ということを踏まえて、次の質問に移ります。前回、問題や課題の洗い出しをしている最中という回答をいただいておりますが、両中学校の教職員の中で、どのような問題点、課題が出てきているのか伺います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。部活動の地域移行については、地域によって課題が大きく異なっております。峡南地域のような都市部以外の地域では、部活動の指導者が少なく、競技によっては全くいないというような専門というように、専門的な指導者の確保の困難性が問題点として挙げられます。

また、部活動を休日に行う専門的な指導者と、平日に行う教員の指導の進め方や、方針の統一が難しいこと、現在は休日に開催される大会へは、教員が付き添わなくてはならないこと、加えて、部活動指導中の怪我等に対する責任の所在等が課題として挙げられています。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

学校の手から離れた生徒たちが、地域でクラブ活動をしていくのに、競技に精通した指導者がいなければ活動は成り立ちません。専門的な指導者が見つからないということで、前回もスポーツ指導者バンク制度を設ける計画はあるのかという質問に対して、国や県の動向を注視しながら考えていくという回答をいただいておりますが、改めてスポーツ指導者バンク制度を設けることは可能かどうか伺います。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。山梨県では、地域クラブ活動の指導者を探している市町村と指導者を繋ぐ役割を担うために人材バンク「スポカルやまなし」を設置しております。このように、県全体で指導者を確保して条件が合えば、派遣していただける制度が確立されていますので、町においては、県の派遣事業を活用することを考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

再質問です。県の人材派遣システムを活用するというこのことですが、人材派遣バンク「スポカルやまなし」とはどのようなものなのか、もう少し説明をしていただけますか。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。「スポカルやまなし」は、公立中学校の部活動の地域移行を目指して、山梨県が設置した、人材バンクシステムでございます。このシステムは、地域クラブ活動に指導者として協力できる人材を登録し、市町村の依頼に応じて指導者を紹介する仕組みとなっております。県教育委員会のホームページに人材バンクシステムのページがございまして、高校生を除いた18歳以上であれば、指導者として登録が可能となっております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

深澤一幸君。

○4番議員（深澤一幸君）

部活動の地域移行は非常に難しい問題です。教員の働き方改革に伴い、生徒の部活動を地域に移行させること、受け入れる地域のクラブ、団体の確保等の問題があります。スポーツ庁もトーンダウンしてくるものの難題となっておりますが、創意工夫して少しずつでも進まなければならないと思います。

今回は、令和4年9月定例会における質問事項の進捗状況を伺う一般質問となりました。

短時間ではありましたが、前回よりも踏み込んだ回答をいただけたと思っております。どちらも、明日を担う子どもたちへの施策です。課題も多いとは思いますが、ぜひとも実現に向けて邁進されますことを希望いたします、私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告5番 4番 深澤一幸君の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

続いて、通告6番 2番 神田雅也君の一般質問を行います。

2番 神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

それでは通告に則りまして一般質問をさせていただきたいと思いますが、今回は防災時における事柄を質問させていただこうと思っております。

では、1の防災時における本町の体制作りについてということで行いたいと思いますが、昨今南海トラフ大地震が叫ばれる中ではありますが、昨年私自身も、県で行っている、甲斐の国防災リーダー養成講座を受講しつつ、防災士を取得し、また、峡南地域防災リーダー養成講座及び富士川町防災リーダー養成講座を受講しました。本年8月8日19時15分に、気象庁は、南海トラフ地震臨時情報巨大地震注意を発表しました。また、何事もなく内閣府は8月15日17時をもって、南海トラフ地震臨時情報巨大地震注意に伴う政府としての特別な呼びかけを終了し、終了しました。今回は何事もなく終結したわけですが、天災というものはいつ起こるのか予測不可能なものなので、備えを万全にすべきだと感じました。そこで、災害時における本町の体制作りについて質問させていただきます。それでは一つ目の質問です。災害時における本町の災害対応マニュアルの作成状況を伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。災害時における災害対応マニュアルの作成状況につきましては、本町において、各課、各担当がそれぞれの業務に応じたマニュアルや業務手順書、計画書等を備えている状況であります。一例を挙げますと、当課においては、避難所開設運営マニュアルを、税務課においては、罹災証明発行マニュアルを、また都市整備課においては、被災建築物応急危険度判定業務マニュアルなどを整備しております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

はいありがとうございます。本当に多くのですねマニュアルがあることに対して、ありがたいと思っはいるわけなんです、再質問をさせていただきたいと思いますが、そうは言っても住民からすると、災害時には様々なお悩み事、お悩み事やお困りごとが日常、通常の日常よりも発生しやすいと思いますから必要だと想定される業務のマニュアルは、これからも増やしていただきたいと思いますが、お考えを伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質問にお答えいたします。このようなことから今後も想定される必要な業務につきましても、各担当においてマニュアル等の整備の充実を図っていく方針であります。引き続き、住民の安全確保を第1とした災害時対応体制の強化に努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

ぜひとも進めていただきたいと思います。それでは二つ目の質問に入りたいと思います。災害協定について災害協定の状況について伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。災害協定締結の状況につきましては、国や地方公共団体との締結が15件、民間事業者との締結が37件となっております。これらの協定は、災害時における対応や物資の調達、避難所の運営など、迅速で円滑な災害対応を可能とするために締結しているものであります。

以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

官民合わせて52件ですかということで、かなり多い数やっていたらと思うわけなんです、それでは再質問をさせていただきたいと思いますが、災害時はどのような規模で発生し、本町と同時に、どの地域が被災するともわかりませんから協定の協定や、共助していただける地域の地域や団体、団体は、多ければ多い方がいいと決まっています。これからも増やしていただきたいと思いますが、お考えを伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。本町といたしましては、引き続き、災害に強い町づくりを進める上で、自治体等や企業、各種団体と共助の内容を含む災害協定の締結を推進し、災害対応力の強化を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

本町はですね、大洗と町田となんていうか、姉妹提携しているというところもありますが、

やはり関東、同じ関東圏ですからぜひともですね先ほども言いましたが、災害はどのような規模で発生し、本町と同時に、どこに、どこの地域にどこの地域が被災するともわかりませんから、想定外を想定していただいて、災害に強く、災害時にも、住民に優しい町づくりが行えるようぜひよろしくお願いいたします。

それでは一つ目の質問を閉じさせていただきます。次の2番目災害時の避難行動要支援者の対応についてということです。水災害発生時に各種警報や情報の入手が困難で、避難避難等の介助が必要な高齢者、障害者、乳幼児、外国人等の要支援者配慮者に対し、平素から安全対策が叫ばれています。本町においても、要配慮者となりうる方々は、少なくないと思いますので、災害時の要配慮者の中でも、特に避難行動要支援者の対応について質問させていただきたいと思います。それでは一つ目の質問です。要支援者の把握方法について伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。災害対策基本法では、災害時に自ら避難することが困難で、避難に当たって、特に支援を要する方を避難行動要支援者とされています。町では、災害時に避難行動要支援者が状況の把握や避難支援が近隣の方などから受けられるよう、地域づくりのために、民生委員児童委員や地域の皆様のご協力を得ながら、災害時避難行動要支援登録者支援カード、こちらの普及に努めているところであります。

また、支援を要する必要とする方が、この登録者支援カードを町に提出していただくことで、要支援者を把握し、要支援者名簿や個別避難計画の作成を行い、災害時の避難支援体制の構築に活用をしているところであります。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

はいそれでは二つ目の質問に入りたいと思います。災害時の要支援者の個別の避難計画の作成状況について伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。災害対策基本法によりまして、避難行動要支援者ごとの個別避難計画は、町で作成することが努力義務とされております。個別避難計画の内容は、要支援者名簿に記載されている情報に加えまして、避難支援を行うものの情報や避難場所、避難経路の情報などを記録をするものです。この計画の策定状況につきましては、毎年、登録者支援カードの更新とあわせて実施をしております。現在は134人の個別計画が策定済みとなっております。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

それでは再質問をさせていただきたいと思いますが、転入や不慮の事故、病気などで年度途中から要支援者となりうる場合もあるかと思いますが、その場合はどのような対応をとられているのか、質問させていただきたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいまの、年度途中に要支援者となった場合についてのご質問にお答えいたします。まず福祉保健課にご相談をいただきたいと思います。またその後カードが必要となった場合においては、新たに登録者支援カードを提出していただいて、また各名簿に追加をいたしまして、その後は地域の方や民生委員児童委員と共有をすることとなると思います。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

はいそうですね。三つ目の質問に入りたいと思います。災害時に、者要支援者支援の担当者は決まっているのか伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。避難行動要支援者の総合窓口は、福祉保健課の福祉担当となっております。

なお、災害時におきましては、当課の地域包括支援センターや防災交通課など、関係課と連携をして、要支援者の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

はいありがとうございます。災害時、大地震のですね、可能性も高まっていると言われてる現在、要支援者と言われる方々のニーズも多様化していると思いますから、ぜひですね福祉担当だけでなく、手に負えただけでは得ない業務の量、ボリュームにもが予想されますので、要支援者の事前の準備及び災害時の要支援者の支援の中心となり、主となって活動する人員の配置を要望し、この質問を閉じさせていただきたいと思います。

それでは3番目の質問に入りたいと思います。防災リーダー養成講座の受講された方への対応についてということです。昨年、防災リーダー養成講座を実施され、これは富士川町のですね、防災リーダー養成講座を実施され本町では年々防災リーダー養成、防災リーダーが増加していることに、まずもって安心感を覚えますし、実施いただいている本町及び担当課に御礼申し上げたいと思います。しかし、一度一度の学びで、大丈夫だ、大丈夫なのだろうかとも感じていたところ、県で行った令和5年度甲斐の国防災リーダー養成講座の受講生に向け、フォローアップ研修の通知が届き、私はすぐさま申し込みを申し込んだところであり

ます。そこで、本町で行っている防災リーダー養成 講座を受講された方への対応について質問させていただきたいと思います。1番としまして、防災リーダーへのフォローアップや、更なるスキルアップの今後の計画を伺いたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまのご質問にお答えします。防災リーダー養成講座につきましては、本町では、令和5年度から養成講座を実施しており、令和5年度には17名令和6年度には12名の方が町地域防災リーダーとして登録されております。これらの方々へのフォローアップ事業として更なるスキルアップや交流促進を目的に、明年度、町地域防災リーダーの意見交換会を計画しているところであります。こうしたフォローアップ事業を通じ、防災リーダーとしての役割をさらに発揮できるよう支援し、地域における防災体制の強化を図ることで、町全体の防災力向上に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

はい。そうですね私も楽しみにしておりますのでぜひともよろしく願いいたします。これからも毎年防災リーダー養成講座を実施していただき、防災リーダーが増えることを望みます。しかし、地域に偏りが出るなど、防災リーダーがいない地域が出てしまう懸念もありますので、各地域に均等に防災リーダーがいる状態を切望します。ぜひとも防災リーダー養成防災リーダーの必要性を各区長会や各種団体を初め、広報誌SNS等で幅広い呼びかけをお願いしたいと思います。そして、いつなんどき、どのような規模が発生するともわからない。災害に災害の対応にみんなで取り組もうという雰囲気盛り上げていただきたいと思います。私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告6番 2番 神田雅也君の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

続いて、通告7番 8番 小林有紀子さんの一般質問を行います。

8番 小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

本日最後の登壇となります。これより大きく3項目に分けて質問させていただきます。最初に1点目の選挙の投票環境の整備についての質問のため、本日はお忙しいところ、笠井修選挙管理委員長にご出席をいただきました。大変にありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。それでは、項目1の投票環境の整備についてお伺いいたします。今年の10月に、石破新政権誕生からわずか1週間余りの超早期解散となり、衆議院選挙が行われました。当日は町制施行15周年記念事業の山車巡行祭の開催と同日での対応となり、職員の皆様方は、早朝より投開票最終まで大変にお疲れ様でございました。

一番目の質問ですが、障害のある方や高齢者の方などに対する投票所での対応について、お伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。投票所における障害者及び高齢者の投票環境につきましてはこれまでも出入口のスロープ化、それから車椅子の配置を始め、老眼鏡、拡大鏡、それから点字機、高さの低い投票記載台というようなものを配置する中で対応してまいりました。また、投票所の支援につきましては、投票管理者の指示によりまして投票従事者によります、投票までの流れの説明や案内を始め、記載から投票までの介添えなどの支援を行っているところでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい。選管の皆さん職員の皆さんしっかりと対応していただいているわけでありますが、本当にお1人お1人に寄り添ったサポートとなると、本当に大変に難しいことだと思っております。今回ある高齢者の方は自分で歩いて話もできて、普段は落ち着いていれば文字も丁寧に書くことができる方ですが初めて行った期日前投票所で大変に緊張してしまい、書く内容を忘れてしまって急にパニックになってしまいました。そのとき、そのまま入れてくださいと声をかけられたので、投票用紙に何も書かずに投票箱に入れてしまったそうです。書く意思があって投票しに行かれたのですが、結果として白票になってしまいました。また、車椅子で来られた高齢者の方のご家族の方からスムーズにサポートしていただけなかったとの声がありました。どのようなサポートをして欲しかったのかがよく伝えきれてなかったのではないのでしょうか。今回の富士川町の衆議院選挙で、せっかく投票所に来たのに、白紙で出したり、字が読めなかったり、間違っているなどの無効投票数が、98人分ありました。

そこで2番目の質問ですが、最近では投票所において、選挙人である高齢者や障害をお持ちの方などがスムーズに投票できるよう支援してほしい事柄を事前に記入し、投票所に持参すると要望した支援を受けて投票することができるという投票支援カードや、その場でサポートしてほしい内容を書いたボードで示していただき、サポートを受けやすくするコミュニケーションボードなどを導入する自治体が増えています。（パネル掲示）こちら投票支援カードですけれども、これは今回の衆議院選挙から導入された上野原市選挙管理委員会の投票支援カードです。ここには投票にお手伝いが必要な方はこのカードに書いてチェックを入れて投票所入場券、ハガキと一緒に投票所の係員に渡してくださいとあります、項目がありますけれども、投票用紙、投票用紙に代わりに書いてほしい代理投票ですね。あと投票所内を案内、付き添いしてほしい、文字候補者名など読んでほしい。候補者名を書いた紙や名刺を見て書いてほしい。点字で投票したい、点字投票その他に手伝ってほしいことがある。この大項目、また何か自分で支援してほしいことを記入をして、その受付に出していただくというものであります。このこういうものがあります。そしてまた、コミュニケーションボード、

これがこれ京都市の選挙管理委員会で導入したコミュニケーションボードです。これもですね、やはり何かお手伝いできますかっていうことでこれは受付のところ大きくしていただいてボードとして展示していただく、そして示していただくものですが、選挙のお知らせはがきがありませんとか、字が書けません、候補者がわかりません、書き方がわかりません、書き間違えました、投票人は忘れ物をしました、その答えや質問をわからないところに示していただいて、その下にここは答えが書いてあるわけですが、そこは職員の方が話をさせていただいたりとかいうことでお答えしていただくようになっております。そして、その指示に従って支援をしていただくというものであります。障害のある方や高齢者の方などが、投票を諦めていた方にも投票しやすい環境を整えることで、投票率の向上にも繋がります。このようにサポートを受けやすくするためのコミュニケーションボードや投票支援カードなどを活用し、誰もが公平に投票できる環境を整えるべきと考えます。導入についてお伺いをしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。投票所における投票支援につきましてはこれまで、選挙人が支援を求めた場合には、選挙事務従事者等により案内等でサポートを支援してまいりました。

こうした中、今議員がおっしゃるとおり言葉に頼らない投票支援の一つであるコミュニケーションボード、それから投票支援カードにつきましては、わかりやすく正確に支援内容が伝えることができるということで非常に有効な支援策だと考えてございます。

こうしたことから今後の投票支援の実現に向けまして、先進事例を参考に検討してまいりたいと考えているところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、今の検討するというのは、導入に向けての検討でしょうか。来年参議院選挙そして次には町長選、また町議会選と、ぜひ続きます。ぜひとも、早期に来年の参議院選挙に向けての導入をぜひ検討していただければと思いますがその点、いかがでしょう。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

導入に向けて検討ということでございますが、3日前の地方紙の新聞にですね、日本障害者協議会から政府に要望がございました。その中で市町村の選挙管理委員会には、今できることから直ちに実施するよう、全ての人々の投票環境の改善を求めていきたいという要望が政府に出てございます。これを踏まえまして、本町でも検討に向けて前向きに考えていきたいと存じます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい全ての有権者が、平等に自由に選挙に参加できる環境を整える責任があると思います。早期の導入をぜひともよろしくお願いいたします。それでは3番目に、高齢者人口減少などの現状に対応する移動投票所の導入についてお伺いいたします。令和3年12月に鮫田議員からも質問がありました。このときは甲州市が投票所30か所から16か所に減少したため、移動投票所の開設や、当日はデマンド型移動支援の送迎を行っていることを参考に、投票率向上に向け検討してまいりたいとの答弁でした。今回の衆議院選挙から近隣の身延町でも導入されました。山間の地域で集落が点在しているため、投票所20か所から10か所に縮小して、その代わりに移動投票所が導入されました。全国的に人口減少、高齢化が進んでいる地域では、立会人の確保や有権者の移動手段が課題となっております。身延町の選挙管理委員会では、有権者が1票を投じる機会と負担軽減の両立のために有効な手段だとして、今後の選挙でも活用していく予定だそうです。移動投票所の導入についてお伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

選挙管理委員会委員長 笠井修君。

○選挙管理委員会委員長（笠井修君）

ただいまの移動投票所の導入についてのご質問にお答えします。

本町ではこれまで期日前投票所を2か所、投票所を各地区に18か所設置し、投票環境を整備してまいりました。こうした中で、少子高齢化を始め中山間地域における過疎化の進展などから、社会環境の変化に応じた投票環境の改善が求められています。その改善策の一つではあります移動式投票所につきましては、選挙人の移動手段に配慮した投票機会が確保できるほか、立会人確保、ただいまご指摘があったとおり課題に対しても有効な手段であると認識しております。こうしたことから、今後、投票所の統合などによる投票環境の整備については、移動式投票所の導入も含めて検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい、ありがとうございます。再質問ですけれども、様々な課題があると思いますが、今導入に向けてということでそのためにも世帯数の少ない地域を対象に現状の人口減少負担軽減を踏まえて、地域の方々のご意見をね、しっかりと伺う機会を設けていただきたいと思えます。やはりこちら側は思っているところはありますけれども、やはり地元の皆様が本当にどういうふうにお考えになっているのかということで、しっかりそこも伺う機会も設けていただければと思っておりますが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。当然投票場の廃止ということになりますれば、地元のご意見意見を伺わなければならないということになります。それを一度、もしという

話もしてはあれですけども一度移動式にしますと、また元に戻すっていうことはなかなか難しいこと、かつ選挙期間の短い選挙になりますれば、入場券の発送から選挙広報の発送までということですからかなりのタイトな状況になってございます。その中で作業ということも勘案すると、どの時点がいいかっていうのを含めて今後の検討課題ということになりますけども、いずれ地元の合意は必要だと感じております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひともよろしく願いいたします。

それでは、大きな2項目目の質問としまして、箱原地区農業集落排水事業についてお伺いいたします。一番目に箱原地区農業集落排水施設は、旧鯉沢町が農業農村総合整備モデル事業として平成4年から7年にわたり、農林水産省の農林水産省の補助金約2億円の交付を受けて総事業費約4億9000万円で整備した汚水処理施設です。平成8年4月の供用開始時点では170人の対象人口でした。設置された28年前より箱原地区は、高齢化人口減少が進んでいます。施設設置20年後の平成28年11月には利用者は69人、現在57人と利用者が減少しています。事業の課題についてお伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。箱原地区農業集落排水事業につきましては、箱原地区の世帯員数減少に伴う料金収入の減少及び供用開始から28年経過していることから、施設の老朽化に対応するための施設の更新や大規模な修繕費用の財源を確保できるかが課題と考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、課長のおっしゃるとおり高齢化人口減少で料金収入はますます減少していくと予想されます。反面、営業費用の光熱水費や保守点検の維持管理費や修繕費の高騰が見込まれ、一般会計の負担が増加していくことが懸念され、今後の財源の確保が課題であると思います。経営戦略の中で、この箱原地区農業集落排水事業経営戦略、平成29年度から平成38年度の経営戦略がありますけれども、この経営戦略の中で、8年前に想定した課題がそのままあります。だからこそ、経営戦略の中で、事業の課題として、中長期的には、当該事業そのものの存続の可否が課題となっています。当該施設の更新や大規模修繕を行うのか、他の排水方法への切り替えを行っていくのか、現在の受益者の住環境に配慮しつつ、経済合理性のある方針を検討する必要がありますとされております。この課題について真剣に考えなければいけないと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。箱原地区農業集落排水事業の施設につきましては、地区供用開始から28年経過していることを鑑みまして今後、運用の仕方について調査研究してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

しっかりと調査研究をしていただきたいと思います。この再質問ですけれども、高齢化人口減少が、本当に進んでいく中で施設の老朽化への対応など本当にあの経営環境は年々厳しさを増していくのが現状であります。総務省から平成26年にこの中期的この経営戦略の策定が言われたわけですけれども、この経営戦略を策定するように求められて策定したのは、この富士川町箱原地区農業集落排水経営戦略であります。この経営戦略は、この10年間平成29年度から10年間として、中間期間である5年をめどに経営戦略の検証を行う予定と書かれています。そこでこの2番目の質問でありますけれども、先ほどの課題があるために、検証が必要なわけです。経営戦略の検証についてお伺いをいたします。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。富士川町箱原地区農業集落排水事業経営戦略では計画期間中、毎年111万6000円の黒字を見込んでおります。平成29年度から令和3年度までの実質収支は、計画見込み額と大きな誤差がなく、黒字となっております。令和4年度と令和5年度は、公営企業会計移行事務負担金を支出しているため、計画の見込み額には達しておりませんが、概ね経営計画の数字とおり推移すると考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

再質問ですが、この経営戦略の中に平成38年度まで、令和8年度までの投資財政計画収支計画が出ております。翌年度への繰越財源として111万6000円が平成29年度から継続しています。ので実質収支は黒字ですけれども、継続してそれで継続していけますが、次の10年後20年後を見据えたまちの費用対効果を検証すべきであると思います。この経営戦略の中で、事業の課題が明確に書かれていて、その課題に対しての今後の取り組みとして、設備の更新に対する準備ということで、次の10年において、設備の更新が必要となる可能性が高くなります。箱原地区は山間の地区であることから、世帯数、世帯員数は想定より早いペースで減少していく可能性があり、設備更新の支出よりも、合併浄化槽といった個別浄化槽の設置の方が、経済効率性が高いことも考えられます。こうした状況に備えるための本計画期間において、設備更新にかかる支出額や当該事業の廃止に係る追加的な費用負担、個別浄化槽方式による維持管理費用と抜本的な対策について検討を行っていきますと書いてあります。そういうふうに明記されております。この計画を検証されるべきではない

でしょうか。どのようにお考えでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。この事業の施設運用につきましては、先ほども申し上げましたとおり運用の仕方について今後調査研究していく中で、最善の運用の仕方をしていきたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ぜひとも国が見直しをなさいと作った計画ですから、しっかりと検証していただきたいと思えます。

3番目の質問ですが、令和5年度の決算では、歳入歳出が約1000万を超えています。歳入の占める主なものは、一般会計からの繰入金773万円で、令和7年度以降は、大部分の企業債の償還が終了し、一般会計からの繰入金も同様に減少します。料金収入の使用料は164万円です。そして維持管理費は337万円かかっています。この維持管理費337万円が今後10年間で考えれば3370万円国交省の下水道管の耐震年数はおよそ50年ですから、あと20年30年持つとして、20年で6740万、30年では1億1100万円かかります。合併浄化槽に変えるとすれば、補助金30万として箱原地区の全34世帯に出しても1020万円です。合併浄化槽にするには、設備投資がかかります。それには、地域の皆さんとの話し合いが必要です。そこで、計画期間は残り2年であります。2年であるため、今後、地域住民との意見交換を行い、基本方針を検討すべきと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

上下水道課長 長澤康君。

○上下水道課長（長澤康君）

ただいまのご質問にお答えします。平成28年度に策定した富士川町箱原地区農業集落排水事業経営戦略は、平成29年度から令和8年度までの10か年の計画期間としています。

今後は、次期計画策定に向け、地域住民との意見交換会の場を設け、計画へ反映してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい。ぜひともしっかりと検証した内容を地域住民の方々に丁寧に説明をし、ご意見をいただき、次の計画を示していただきたいと思えます。現在国では、災害に強い、早急に復旧可能な合併浄化槽へ転換する事業の支援を行っています。1月の能登半島地震でも、水道管の大きな損傷で断水となり、トイレが使えない状態が大変に深刻な問題でした。浄化槽は、震災時に水道が使えなくても槽本体が損傷しない人いない限りは、トイレの機能が確保され

ます。環境省では、災害時の避難所となる施設に浄化槽の整備を推進しています。20年後30年後の財政を考え、そして箱原地区の皆様のご負担を極力かからないよう、町としてできるベストの対策をよろしく願いいたします。

それでは3番目の観光振興についてお伺いいたします。富士川町観光振興計画は、観光の振興に関する施設施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、第2次富士川町総合計画を上位計画とする観光部門計画と位置づけて、策定された計画です。計画期間は第2次富士川町総合計画に即し、平成30年から平成37年度までの8か年としています。令和7年度までの計画であります。既に総合計画においては、各地域でのワークショップが行われ、次期総合計画の策定に向けて着々と進められていますが、同じく次期観光振興計画も、今後の町づくりに大変重要な計画であると考えます。次期観光振興計画の策定のため、これまでの富士川町観光振興計画の検証についてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えをいたします。町では、富士川町観光振興計画に基づき、地域の特性を生かした観光地域づくりの推進と課題解決に取り組んでまいりました。また、町内の観光資源を活用し、観光振興の基盤整備や情報発信にも力を入れてきたところでございます。こうした中で、近年の社会情勢の変化を踏まえ、町単独の取り組みに加え、山梨県、峡南地域、関係市町村との広域的な連携を強化することが重要であると考えております。さらに、本年9月には株式会社富士川まちづくり公社が地域DMOに登録されたことを受け、次期観光振興計画においては、広域的な連携を進めるとともに、株式会社富士川まちづくり公社との連携強化を図っていきたいと考えております。こうした背景を踏まえ、今後、観光振興計画の検証を行ってまいります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

はい再質問ですが、次期観光振興計画を策定する中で今、課長がおっしゃった町で、町では地域DMOである株式会社富士川まちづくり公社をどのように位置づけ、計画に取り入れていくお考えですかその点お伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

産業振興課長 望月奈緒美さん。

○産業振興課長（望月奈緒美さん）

ただいまのご質問にお答えをいたします。株式会社富士川まちづくり公社につきましては、地域の観光振興を総合的に担う組織として情報発信や観光資源の開発、マーケティングなど中心的役割を果たすことを期待しております。次期観光振興計画の策定に当たりましては、地域の観光資源を株式会社富士川まちづくり公社と連携しながら、効果的に活用するための計画を策定するとともに、その機能を最大限に活かせる施策を盛り込む盛り込んでいく考えでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

小林有紀子さん。

○8番議員（小林有紀子さん）

ありがとうございます。私が聞きたかったことが全て課長が答弁していただきましたので、ぜひとも最大に期待をしております。今観光地のニーズは物の所有から体験活動にお金を使うコスト消費に移行しています。自然や文化、アクティビティな総合的に楽しむアドベンチャーツーリズムなど富士川町の素晴らしい観光資源を効果的に連携させて、観光振興とまちの活性化を図られるよう強力に進めていただきますよう、来年度の計画策定をよろしく願いいたします。以上で私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、通告7番 8番 小林有紀子さんの一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、一般質問は終わります。

本日の日程は、すべて終了しました。

本日は、これにて散会といたします。

起立願います。相互に礼。ご苦労さまでした。

散会 午後 2時12分

令和 6 年

富士川町議会 1 2 月定例会

1 2 月 1 0 日

令和6年第4回富士川町議会定例会（3日目）

令和6年12月10日
午前10時00分開議
於 議 場

1 議事日程

日程第 1	諸般の報告	
日程第 2	承認第12号	専決処分の承認を求めることについて（令和6年度富士川町一般会計補正予算（第5号））
日程第 3	議案第62号	富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について
日程第 4	議案第63号	富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について
日程第 5	議案第64号	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
日程第 6	議案第65号	富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について
日程第 7	議案第66号	令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）
日程第 8	議案第67号	令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
日程第 9	議案第68号	令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
日程第10	議案第69号	令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）
日程第11	議案第70号	令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第2号）
日程第12	議案第71号	令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）
日程第13	議案第72号	令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）
日程第14	議案第73号	富士川町過疎地域持続的発展計画の変更について
日程第15	議案第74号	甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について
日程第16	議案第75号	山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う山梨県市町村総合事務組合同規約の変更について
日程第17	議案第76号	山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について

2 出席議員は次のとおりである。(12名)

1番	宇田川 朱 恵	2番	神 田 雅 也
3番	依 田 誠 司	4番	深 澤 一 幸
5番	小 林 和 良	6番	秋 山 仁
7番	望 月 眞	8番	小 林 有紀子
9番	齊 藤 欽 也	10番	青 柳 光 仁
12番	井 上 光 三	13番	堀 内 春 美

3 欠席議員

11番 鮫 田 洋 平

4 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 (19名)

町 長	望 月 利 樹	副 町 長	早 川 竜 一
教 育 長	古 屋 三 千 雄	会 計 管 理 者	河 原 恵 一
教 育 次 長	秋 山 忠	政 策 秘 書 課 長	中 込 浩 司
財 務 課 長	深 澤 千 秋	管 財 課 長	渡 辺 成 昭
税 務 課 長	望 月 聡	防 災 交 通 課 長	長 田 博 幸
町 民 生 活 課 長	原 田 和 佳	福 祉 保 健 課 長	遠 藤 悦 美
子 育 て 支 援 課 長	一 之 瀬 三 千	産 業 振 興 課 長	望 月 奈 緒 美
都 市 整 備 課 長	井 上 勝 彦	土 木 整 備 課 長	山 形 謙 一 郎
上 下 水 道 課 長	長 澤 康	教 育 総 務 課 長	小 林 恵
生 涯 学 習 課 長	井 上 誠		

5 職務のため出席した者の職氏名 (2名)

議会事務局長 依 田 正 紀
書 記 井 上 直 子

開会 午前10時00分

○議長（堀内春美さん）

開会の前に、相互にあいさつを交わします。
起立願います。相互に礼。着席願います。

○議長（堀内春美さん）

令和6年第4回富士川町議会定例会3日目の本会議に、議員各位には、大変お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまの出席議員は、12名であります。

定足数に達しておりますので、これから、本日の会議を開きます。

○議長（堀内春美さん）

日程第 1 諸般の報告

この際、議案の審議に先立ちまして、諸般の報告を行います。

議長から報告します。

本日の議事日程は、お手元に配布したとおりです。

本日は、質疑の日程になっております。

質疑の回数は、富士川町議会の申し合わせのとおりといたします。

議会運営に、ご協力くださいますようお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

日程第 2 承認第12号 専決処分の承認を求めることについて（令和6年度富士川町
一般会計補正予算（第5号）

を議題とします。

これから、承認第12号について、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、承認第12号について、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第 3 議案第62号 富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について

日程第 4 議案第63号 富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の
議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
について

日程第 5 議案第64号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等
に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例
の整理に関する条例について

日程第 6 議案第 6 5 号 富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について

以上の 4 議案は、条例改正案件でありますので、一括して議題とします。

これから、議案第 6 2 号から第 6 5 号までについて、質疑を行います。

質疑はありませんか。

9 番 齊藤欽也君。

○ 9 番議員（齊藤欽也君）

えーそれでは、質疑をさせていただきたいと思います。議案第 6 3 号の平たく言うと、特別職に関わる期末手当の増額改正ということなんですけども、6 2 号における職員の期末手当及び勤勉手当は人事院勧告に基づいてということなんで、これは非常に理解できます。しかしながら、この特別職のえ一期末手当上げましょうという、これ職員の 6 2 号の職員の値上げを、に鑑みということのようなんですけども、本町では、先ごろ職員の不祥事によって職員の事務ミスですね、事務的なミスによって 5 0 万円の損失を出しております。

そういう中で、管理監督管理責任のある特別職、あるいはそういった事態を正すべき行政を監視チェックする議会も特別職なんですけども、そういう中、そういうことがあった中で、これを上げるという提案なんですけれども改めてその点についてお伺いしたいと思います。

○ 議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○ 財務課長（深澤千秋君）

ただいまのご質問にお答えいたします。ご指摘のとおり、職員の事務の手続き上の不手際があったことは事実でございます。そうした事案をですね、該当する職員当然分限委員会ということで、分限処分させていただいたところでございます。当然執行部我々も含めた執行部もそういう立場にある人間でございますので、そういったこともあろうかと思っておりますけども、不手際を起こした後、分限の他に業務のマニュアル等の改定をさせていただいて、襟を正したということでございます。ですので、給与改定につきましては、こういったことでの改正をさせていただきますけども、今後の事務執行につきましては、十分留意していきたいということでございます。以上でございます。

○ 議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○ 9 番議員（齊藤欽也君）

財務課長の答弁は非常に理解してる。私が言っているのは、職員の 6 2 号の部分についてはいいですよ、今言った分限委員会の話も正式には伺ってないんですけども、伝聞でね、訓告か何かされたという話も聞いておりますし、議会の方でも委員会でマニュアル等ちゃんともう一度見直して、ミスが起こらないようにしてくださいということもしてるんで、そこはいいですよ。そういうことじゃなくって、職員の話をしてるわけじゃなくて、特別職である町長を筆頭とする私達がそういう中で何もしなくていいのかと、平たくちょっと表現良くないですけど、のほほんとして職員が上げたから私達を上げましょうっていうふうには、ならないんじゃないかということなんです。これはむしろ、提案されてる町長からご答弁いただいた方が非常によろしいかと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

はい。ただいまの質疑、あの質疑の時間です。議案に対する質疑ということですね、今言った部分というのはこの議案に対する部分ではないのでお答えいたしません。

議案をしっかりと読んでください

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

今の町長の答弁私にはちょっとわからなかったんですけども、平たく言うということ値上げをするというときに、そういった責任もあるわけですから、その辺も鑑みて、今一度考え直すべきではないかということをお願いして、私は、できればこういった案件はですね、撤回された方がいいんじゃないかと思います。以上です。

○議長（堀内春美さん）

ほかに、質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、議案第62号から第65号までについて、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第 7 議案第66号 令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）

日程第 8 議案第67号 令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

日程第 9 議案第68号 令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

日程第10 議案第69号 令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）

日程第11 議案第70号 令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第2号）

日程第12 議案第71号 令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）

日程第13 議案第72号 令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）

以上の7議案は、補正予算案件でありますので、一括して議題とします。

これから、議案第65号から第72号までについて、質疑を行います。失礼しました。

これから、議案第66号から第72号までについて、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

7番 望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

議案第66号平和、令和6年度一般会計補正予算第6号について質問します。議案書61ページ21款雑収入3目雑入1節雑入、総合賠償保険補償保険金収入及びトレーニング室指定管理者納入金180万1000円とありますが、この内訳については、確か総合賠償保険金収入が151万5000円だったというふうに受け止めておりますが、このトレーニング室指定管理人納入金はわかるんですが、総合賠償補償保険金の内容についてご説明をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。総合賠償補償のこの保険金であります。今年度始めに議会の方でも報告させていただきました、イラストの著作権に関わるその部分につきまして保険に適用していたことから、解決金の部分及び町が弁護士に払った費用、この部分につきまして151万5000円が保険金として収入としてありましたので、ここに計上させていただきました。以上です。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

了解しましたもう一点お願いします。

議案書65ページ、ガバメントクラウドファンディングの報償については、説明で理解いたしましたが2款総務費5項企画費1目総務費13節使用料及び賃借料67万4000円バス借り上げ料等の用途についてお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。バスの借り上げ使用料ですがこちらにつきましては、先月15周年記念事業として、大洗町を訪問したバスを企画しましたが、参加申し込み等が多数ございまして、第2弾ということで今回の補正の中で、このバスの借り上げ代2台分になっております。その分について計上させていただきました。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

バス2台分で65万になるわけですか。ちょっと、金額大きいような気がするんですが、これは2日間かけてですか。日帰りの計画ですか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。こちらの日帰りで行くツアーに計画しておりましてバス2台分になります。距離が長いので、運転手また添乗員等の配置も必要であることから、若干割高のあの金額にはなっております。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

了解しました。たくさんの皆さんがね、大洗を訪ねるということは良いと思いますけども、やっぱりこの辺の金額についても検討する必要があるのかなというふうに思って質問させていただきました。以上で終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

○6番議員（秋山仁君）

議案第66号補正予算ですけれども、ページ数が67ページです。3款民生費、1社会福祉費ですね。3目の障害者福祉費142万7000円ですね。そこの22節、ここに142万7000円ということで、過年度の返還金ということでこの他にもいろいろ返還金があるわけですけれども、この返還金はその過ぎた年度ってということなんですけど、どういうふうに理解すればいいか説明をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいま過年度分の障害児入所給付費等の返還金についてのご質問にお答えいたします。こちらの方は、前年度令和5年度の精算につきまして確定したものですので、こちらの方で精算金ということになります。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

次に同じく66号ですけれども、補正予算ページ数75ページですね、8款土木費ですね、4項都市計画費、公園費の80万ですけれども、14節ですね大法師公園ののり面の保護工事規模っていうんですかね、のり面っていうのは、例えば石積みとかコンクリートかいろいろあるかなと思われるですけれども、この辺の説明をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまの質疑にお答えします。大法師公園ののり面の土砂の崩落になりまして、延長が約3メートルとなっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

大法師公園ののり面、今言ったようなことなんですけれども、これは土木費にしては金額、少ない金額かなと思われるですけれども、工事日数なんかも結構かかるわけですかね。

○議長（堀内春美さん）

都市整備課長 井上勝彦君。

○都市整備課長（井上勝彦君）

ただいまの質疑にお答えします。のり面保護工事につきましてはコンクリート擁壁等での復旧を予定しておりますので、工事期間につきましては、1、2か月程度と今考えと予定しております。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

それからページ数議案66号ですけども、ページ数76ページですね。9款消防費ですね1項消防費、消火栓の設置工事ということで77万3000円これは、場所はどこになるでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質疑にお答えします。場所につきましては最勝寺区の旧上下水道事務所の西側の三差路の先から、大久保の公民館のちょうど中間あたりになります。以上です。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

これはあれですかね、あの新規設定、新設っていうですかね、それとも変えるというのか、ちょっとその辺をお願いします。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質疑にお答えします。新設でございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

同じく66号ですけども、ページ数81ページですね。10款教育費6項学校教育ですね。給食センターの266万5000円賄い材料費ということなんですけども、これはあれでしょうか、どういう言えばいいですかね。定期的な購入っていうんですかね、そういうふうな形で理解すればいいんでしょうか

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまの質疑にお答えいたします。年間約200日、学校給食費を提供しておりますが、そのうちの年間の7日分の食材費が、ここにきて不足というような事がわかりましたので、その分の補正をさせていただきたく計上させていただきました。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

そうしますと、ここんところ結構物価の値上がりしてるわけですけども、それが一番の要因なんのかなというふうに、ちょっと思うんですけど、お願いします。

○議長（堀内春美さん）

教育総務課長 小林恵さん。

○教育総務課長（小林恵さん）

ただいまの質疑にお答えいたします。当初予算を見積もる際にも、物価上昇高騰分のは、見込みをいたしまして当初に計上させていただいたわけですが、春に続いて秋も2000食以上の食材費の値上げが実施されましたので、その分の値上げの部分の、今回計上させていただきます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

それから205ページになるんですけどもすいません。ここは違う以上で終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

10番 青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

すいません今持ってくる間にページが飛んじゃった。まずタブレットの60ページ、補正予算の中で17款財産収入2目の物品売払収入ということで、金額は細かいですけども、3万円、物品売払とありますけれども、細かくて申します。申し訳ないですけど、珍しい金額だと思ひまして内容をお伺いします。

○議長（堀内春美さん）

子育て支援課長 一之瀬三千さん。

○子育て支援課長（一之瀬三千さん）

ただいまの質疑にお答えいたします。旧第2保育所のピアノを財産処分いたしました。その金額になります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

引き続き61ページになりますけれども、22款町債、2目土木債あ5款衛生費ですね。峡南医療センター企業団負担金事業、マイナスの3690万と記載が減額されております。これ当初予算で3890万のうち3690万が運営費の負担金というふうになっておったと思ひますけれどもこれはあえて記載なくて、繰り入れとかそういったことで賄えるということなんでしょうか。お願いします。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

ただいまの質疑にお答えいたします。こちら過疎対策事業債ということで過疎対策事業費の中のソフト分ということになってございまして、国、県の枠配分がこの金額で提示されたものです。それ以上借り入れることができないということで、その不足分については一般財源という繰入金ということになります。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

あの、ちょっと聞き取りづらかったんで、借入枠があって、それがいっぱいになったからあの起債が起こせなくて、一般財源で賄うということによろしいでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

財務課長 深澤千秋君。

○財務課長（深澤千秋君）

過疎対策事業債のソフト分の県からの枠配分、枠配分がこの金額ということでございます。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

はい、理解しましたありがとうございます。続いて、タブレットの81ページ10款教育費2目社会体育施設費、節でいきますと13節使用料及び賃借料の旧増穂商業体育館使用料光熱水費ということで、192万1000円の減額になっておりますけれども、体育館を借りる中で、これ光熱水費が190万減額になったっていうことは、あまり使われなかったというふうに解釈してよろしいのでしょうか。お願いします。

○議長（堀内春美さん）

生涯学習課長 井上誠君。

○生涯学習課長（井上誠君）

ただいまのご質問にお答えします。当初予算で増穂商業体育館の光熱水費を使用料で計上してございました。こちらにつきましては県からですね光熱水費とするか、使用料とするかというお話が決まっておりましたので、使用料として計上をしたところでございます。この度、使用料から光熱水費に予算更正をするというところでありまして、300万当初では見込んでおったんですが、そちらが192万1000円程度でいけるのではないかという見込みの中で計上を、すいません150万ですね、光熱水費150万で増穂商業の部分は何とかいける、全ての社会体育施設費を見込みまして、その中で使用料を更正するというところであります。また、光熱水費の高騰による増加も見込んでおりますので、光熱水費は全て賄えるということで今回補正で計上したところでございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

以上で終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに、質疑はありませんか。

9番 齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

それでは一般会計の補正の部分についてちょっと細かいんですけども、お聞きしたいと思います。まずページ63ページですね。これはどこの・・・総務管理費、2款総務費1項総務管理費の5目ですね。広報費、これ財源更正ということで、一般財源の151万5000円

を、その他ということで財源更正でしてるんですけども、そのその他というのは具体的に何かちょっとお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。先ほど望月議員様からの質疑があった内容と同じになりますが、著作権の問題に対しまして、その分の解決金と弁護士に払う費用、こちらの一般財源で当てておりましたが、これが保険の対応となってなったことによりまして、保険金の収入をその他、一般財源を、はいマイナスという形で調整させていただきました。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ありがとうございます。次に企画65ページ、先ほども秋山議員さんの方からも出されたバス借り上げ料についてなんですけども、2台ということなんでそれはわかっておりますけども、これ参加料は無料ということだろうというふうに理解してるんです。その点についてちょっとお伺いしたいです。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。11月に実施いたしました大洗町のツアー、その時に関しましても、参加者からは食事代及び観覧料という形で1人当たり6000円の負担金をいただきました。この第2弾の方でも同額を今のところ考えている予定であります。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

ありがとうございます。次にですねその下の段の、2目計画調査費なんですけどもこれ、ガバメントクラウド接続使用料ということなんで、これはどっかと多分契約をするのか何かちょっとわかんないですけどその辺の内容についてお願いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回国の方で用意いたしますクラウド、それに対する接続、接続料となりますが、峡南5町及び山梨県下全ての自治体がほぼLGWANという回線を結んでおります。国が用意いたしますこのクラウドに、LGWANから回線をつなぐ場合の使用料という形で、この分が今回2か月分という形で計上させていただいております。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

一点確認です。今回2か月分というお話なのですが、これは今回に限るのか、今後もそういう形で例えば来年度からは年間みたいな形でいくのかちょっとその辺だけお願いします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。次年度以降はこれが1年分かかってくるという形で、また新年度予算の方に計上させていただくことを考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

以上で終了します。ありがとうございました。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

先ほどから出ております議案第66号一般会計補正予算について、質疑をさせていただきます。タブレットのページが69ページになります。3款民生費2項児童福祉費3目保育所総務費19節扶助費になります。こちらですね、全協でもご説明いただいたんですけども、2500円の1人当たり2500円の町上乗せ支給分なんですけれども、こちらについては補助金で県からの何か条件があって、町から上乗せをしているのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

子育て支援課長 一之瀬三千さん。

○子育て支援課長（一之瀬三千さん）

ただいまの質疑にお答えいたします。県の方から内示額といたしまして、300万円歳入の方にあの、盛らせていただいておりますけれども、そちらが支給、給付されます。それ以外に、400人対象としておりますので、100万円が単費ということになっております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

県の方からは特に条件はなく300万円という形であったということです。わかりました。もう一点ですね同じところなんですけれども、保育所などへ通園していないお子さんは家庭育児応援金という形で給付があるため、今回は、保育所等に通園しているお子さん対象ということだったんですけれども、家庭育児応援金が0から3歳まで3歳未満までということですのでそれ以上のお子さんで、まああまり数はいないと思いますけれども、保育所等に通園していない何か転園とか引越したとか、そのような理由で通園していないお子さんに対しては、この

補助はどのようにするのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

子育て支援課長 一之瀬三千さん。

○子育て支援課長（一之瀬三千さん）

ただいまの質疑にお答えいたします。該当にならない、保育所と保育所等へ通われていないお子様につきましては、対象外となっております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

以上で終了いたします。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、議案第66号から第72号までについて、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第14 議案第73号 富士川町過疎地域持続的発展計画について
を議題とします。

これから、議案第73号について、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

5番 小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

それでは質疑をさせていただきます。ページ数で言うと210ページ。持続的発展計画の中ですね、210ページのところに、新しく光ファイバー設備事業というのが盛り込まれております。この盛り込まれた、まず背景についてお聞きしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回、過疎計画の中に計上、新たに計上いたしました。が、中部地区及び五開地区におきまして、NTTの光ファイバーケーブル、こちらのことについての要望等がただいま出されております。それに対しまして過疎計画の中に計上することで、こちらの事業を行う場合には、この計画の対象としたいすることにより今回新たに追加させていただきます。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

確かに以前からいろんなご要望が入ってきてますけども、富士川町としては、そこを今の十谷とかその辺の方面を光ファイバーすれば、全全地区が光ファイバーが網羅されると考え

てよろしいですか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回この工事をする事になった場合、NTTの光回線が引かれるという形になりますので、現時点においては富士川CATVさんで入れてございます光ファイバーケーブル、こちらについては既に中部・五開地区の方には配線されてる状況にはなっております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。マスクを外してください。

○5番議員（小林和良君）

すいません。ちょっと今私がお聞きしているんですけど、ちょっと相違があるので今の質問はあれしてほしいんですけども、NTTの光ケーブル今回の計画で、富士川町全域にNTTの光ケーブルが網羅されると考えてよろしいですかという質問です。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。富士川町全地区においてNTTの光ケーブル、こちらが引かれるという形にはなります。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

もう一点だけ、この光ケーブルを引く場合に、ちょっと条件があるという、のをですね、お聞きしたことがあるんです。金額的なこともあるだろうし、あとは世帯数のこともあるだろうし、この辺はどのように把握しているのかお聞きします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。NTTの方から条件として出されてございますのが、中部・五開地区こちらの加入者世帯が110世帯の申し込み等がある場合、また町の負担金等も出す場合という形でこのような条件提示がされております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

以上で私の質問を終了します。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

9番 齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

それではタブレットのまず211ページ。過疎地域の整備についての計画なんでその都度必要と思われるものを、入れたり削ったりということがいつもされてるわけですけども、そこでちょっと伺いたいのは、生活環境整備のところの消防について消防施設について。旧来は詰所事業、詰め所建設事業ということでこれどっかやったかどうか私今議員でない時期もある、ありますので、承知はしておりませんが、それをですね今回詰所整備事業というふうに改めて記載し直してるわけですけど、その想定している内容ってのはどういうものかちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質疑にお答えします。前の事業内容でございます、消防団詰所建設事業をこちらについては新設の建築を予定しております。今般消防団の詰所整備事業を行う上で、旧来の町の施設を改修をしてそこを詰所として利用すると、そういうことも想定して検討しておりますので、改修も含めたということで、整備事業というふうに改めさせていただきました。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

次にですねその次のページ、4ページ4ページ次のページ、212ページですね。ここにはその高齢者福祉の充実ということで、前回はいきいき筋力教室という表現を健康広場という表現に変えています。前からちょっと私も質問なんかしてますけども、本年度からいきいき筋力教室を地域でということで、町からの直接的な支援というのはなくなったわけですけども、これは、この過疎計画の中でも、今度は健康広場というふうに表現変えています。その辺の理由あるいは今後について、どのように考えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

福祉保健課長 遠藤悦美さん。

○福祉保健課長（遠藤悦美さん）

ただいまのいきいき筋力教室、健康広場についてのご質問にお答えいたします。こちらのいきいき筋力教室につきましては、もう何年も前から地域の方で各地区で教室の方は開催をさせていただいておりましたけれども、昨年度地区の方々とお話し合いをしましてそれぞれ町が主導ではなく、地域の皆様が主になって運動なりをしていただくようお願いをしてみました。教室自体は、少なくともはなっておりませんが、この名称だけをいきいき筋力教室から健康広場ということで、改正をさせていただき継続をしているところでございます。町からの支援につきましては、指導士なり衛生士歯科衛生士です。そういった方々を入れて、専門の方を入れまして、教室をまた増やしているというところでございます。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

要は過疎債を当てながら、名称は変わるにしても、健康広場という形で継続的な支援を行っていくということで、理解すればよろしいでしょうか。頷かれたんで、理解しました。ありがとうございました。これで私のこの件についての質疑を終わりたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、議案第73号について、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第15 議案第74号 甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について

を議題とします。

これから、議案第74号について、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

議案第74号について質疑をさせていただきます。甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に関わるということで、えとですね、こちらのまずですね、これを結ぶことによって効果についてどのように考えているのかお願いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回、この中枢連携に加わることで、これまで峡南の中での連携結んできておりましたが、今回この甲府市を中心とした国中地域の連携、この中に加わることになりまして、これまでの観光部門、また人の交流部門、そういったところでさらに大きな連携ができるものと考えておりますので、今議案という形で、この連携協議に加わることの提案をさせていただきました。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

まず観光の方で、ということで理解いたしました。2点目なんですけれども、富士川町の負担についてですね、主に経済的なものとかそういったもので、デメリットについては何か挙げられるのでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。経済的、予算対応になりますが、現時点では甲府市

が中心となるこの連携中枢におきましては、甲府の方で全て事業等に関しましての予算を計上してその中で、それ以外の8市3町がああ事業を行っていく、そのようなこのような形になってございます。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

ということは、当面、町の負担金はないと考えてよいでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。負担金等の予算、費用等は発生してございません。以上です。

○議長（堀内春美さん）

宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

6番 秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

議案第74号ですけれども、甲府市とのですね、連携協約の締結に関する協議についてということで、これを連携協約を結ぶ前の協議会が協議会だと思われますけども、それでその場合にですね、ある程度進んでくると基本方針や、ね役割分担っていうんですかね、そういうものをここにもちょっと、抽象論で載ってますけどもこの辺が今のところ、このように進む進みたいとか、うちの町としてですね、そういう考えがあれば、お聞きしたいです。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回この議決をいただいた後に、協議を進めていきます。それぞれ各専門部会という形で町の方でも各担当が連携協約の一番下部のその検討会、この中で協議をしていく中でいろいろな施策については、今後決まっていく形になります。全体として先ほど、答弁いたしましたとおり富士川町といたしましては、この観光面、特に道の駅富士川を中心に今後、中部横断道沿線の中ではかなり人の交流が増えていく、峡南5町だけではなく、アルプス市ないしは中央市、また北杜市の方に向けてということでそういったことも今後考えられるのではないかと考えております。以上です。

○議長（堀内春美さん）

秋山仁君。

○6番議員（秋山仁君）

終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

9番 齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

それで一点だけちょっと確認したいっていうのは、この連携中枢都市圏構想ということで見ていくとこれ要するに、甲府市とうちの町と協定を結ぶという内容なんですけども、多分、おそらく他も全部甲府市と例えばどこどこことごとこという、要するに見てるとブリッジ的なイメージがちょっとあるんですけども、実際には例えばそれを進めていく、全体の合同会議というので進めていくなこと形態になるのか、あくまでも甲府市を中心としてブリッジ的な形での協議を行って推進していくという形になるかそこんところちょっとお願いしたいと思います。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 中込浩司君。

○政策秘書課長（中込浩司君）

ただいまの質疑にお答えいたします。今回の連携中枢都市圏ですが、協約を甲府市と結びましてその内容を検討していきます。ただし実際専門部会、幹事会、協議会という形で三つの集まりがございますが、そこは全て参加しております。富士川町と市川が加わると、9市3町の職員、これが全員が入る中でいろいろな物事を検討または決定していく、そのような組織になってございます。

○議長（堀内春美さん）

齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

要するに、締結の仕方は甲府市と、でも実際の協議は参加全ての自治体で協議し合意しながら進めていくというふうに理解すればよろしいとよろしいですよ。それ、はい。ありがとうございました。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、議案第74号について、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

日程第16 議案第75号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う
山梨県市町村総合事務組合規約の変更について

日程第17 議案第76号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う
財産処分について

以上の2議案は、組合事務変更状況案件でありますので、一括して議題とします。

これから、議案第75号及び第76号について、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

7番 望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

議案第75号、議案書227ページ山梨県市町村事務組合の共同処理の処理する事務の変更に伴う山梨県市町村事務組合同規約の変更について質問いたします。山梨県市町村事務組合が共同所有して、共同処理として推進してきた住民の交通災害共済事業を廃止していくための規約変更手続き上の議案になると理解しておりますが、長年継続してきた住民交通災害共済事業を廃止していくことになった経過について伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質疑にお答えします。この交通災害共済につきましては昭和42年から甲府市でスタートしましてその後事務組合ということで、山梨県下の市町村が参加して交通災害に関する共済事業を行ってまいりました。今般ですねやはりその、これを廃止するに至る原因につきましては、3点ほどありまして、まず1点目は加入者数の減少です。こちらについては昨今、ここ5年ぐらいの間でおよそ毎年ですね7%から8%の減少。人数にしまして大体6600人前後の減少になっております。平成5年から6年に関しましては、8万5000人から約そこから6600人減少ということになっております。二つ目が民間商品の充実になります。最近ではいろんな保険会社から安くて、保障の良い商品がたくさん出ておりまして、この商品との競合が現在起こっているということ。3点目としましては、現在国の方で進めてます基幹業務システムの標準化、基幹業務システムの標準化というのがありまして、こちらについては主要の26業務、例えば住基であるとか税であるとか、子育て年金、こういった業務を全国的に統合したシステムに変えていく標準化という作業がありますが、これが平成すいません失礼しました。令和7令和8年度から始まります。そういったことを考えますと、7年度をもって終了ということにしないと8年度から新しい標準化システムが始まってしまいますので、この加入者証の発行が現在独自で行われていたものがそれぞれの市町村で発行できなくなってしまうということで7年度をもって、この交通災害共済について終了ということで、市町村の市町村総合事務組合を構成する市町村で決定となりました。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

経過についてはよく理解いたしました。再質問になりますが、228ページを見ると、改正する規約の改正事項が提示されています。施行日として、令和8年4月1日から施行するということになっていますが、附則を見てみると、施行期日とあり、それから経過措置について触れられています次年度の令和7年は引き続き、加入をすすめるということになっているようですが、例年令和8年度から廃止するということをやっぱりこの会議に加入時にやっぱり明記する必要があるかなど。それからもう一つ令和10年5月31日までは保証期間があるということ明記した上で次年度の加入申し込みを私はするべきではないかというふうに思っています。廃止することがわかっているので、そのことを含めた加入申し込みの

手続きをしていく必要があるいは周知をしていく必要があると思いますが、その点について伺います。

○議長（堀内春美さん）

防災交通課長 長田博幸君。

○防災交通課長（長田博幸君）

ただいまの質疑にお答えします。この加入につきましては、令和7年度をもって最終の加入、その加入者が請求期間である2年を持って2年を持って令和9年度の出納整理期間10年度の5月31日までということと終了となりますが、今回7年度の加入につきましては、そういったことを明記して、各市町村が募集をするということで話ができております。以上になります。

○議長（堀内春美さん）

望月眞君。

○7番議員（望月眞君）

了解しました。ぜひきちんと周知をしていただきたいというふうに思います。以上で終わります。

○議長（堀内春美さん）

ほかに質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、議案第75号及び第76号について、質疑を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で、本日の日程は、すべて終了しました。

本日は、これにて散会とします。

起立願います。相互に礼。ご苦労さまでした。

散会 午前11時06分

令和 6 年

富士川町議会 1 2 月定例会

1 2 月 1 3 日

令和6年12月13日
午前10時00分開議
於 議 場

1 議事日程

- 日程第 1 諸般の報告
- 日程第 2 請願第 3号 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正を求める意見書採択の請願について
- 日程第 3 議案第 6 2号 富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について
- 日程第 4 議案第 6 3号 富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第 5 議案第 6 4号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
- 日程第 6 議案第 6 5号 富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 日程第 7 議案第 6 6号 令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）
- 日程第 8 議案第 6 7号 令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第 9 議案第 6 8号 令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 日程第 10 議案第 6 9号 令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第 11 議案第 7 0号 令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第2号）
- 日程第 12 議案第 7 1号 令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第 13 議案第 7 2号 令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第 14 議案第 7 3号 富士川町過疎地域持続的発展計画の変更について
- 日程第 15 議案第 7 4号 甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について
- 日程第 16 議案第 7 5号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う山梨県市町村総合事務組合同規約の変更について
- 日程第 17 議案第 7 6号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う財産処分について
- 日程第 18 議案第 7 7号 富士川町人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて
- 日程第 19 議案第 7 8号 富士川町人権擁護委員候補者の推薦につき議会の意見を求めることについて

- 日程第 2 0 意見書案第 3 号 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方
改革、長時間労働是正を求める意見書提出について
- 日程第 2 1 ひとづくり常任委員会の閉会中の継続調査申出書について
- 日程第 2 2 まちづくり常任委員会の閉会中の継続調査申出書について
- 日程第 2 3 議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について

2 出席議員は次のとおりである。(11名)

1番	宇田川 朱 恵	2番	神 田 雅 也
4番	深 澤 一 幸	5番	小 林 和 良
6番	秋 山 仁	7番	望 月 眞
8番	小 林 有紀子	9番	齊 藤 欽 也
10番	青 柳 光 仁	12番	井 上 光 三
13番	堀 内 春 美		

3 欠席議員 (2名)

3番	依 田 誠 司	11番	鮫 田 洋 平
----	---------	-----	---------

4 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名 (19名)

町 長	望 月 利 樹	副 町 長	早 川 竜 一
教 育 長	古 屋 三 千 雄	会 計 管 理 者	河 原 恵 一
教 育 次 長	秋 山 忠	政 策 秘 書 課 長	中 込 浩 司
財 務 課 長	深 澤 千 秋	管 財 課 長	渡 辺 成 昭
税 務 課 長	望 月 聡	防 災 交 通 課 長	長 田 博 幸
町 民 生 活 課 長	原 田 和 佳	福 祉 保 健 課 長	遠 藤 悦 美
子 育 て 支 援 課 長	一 之 瀬 三 千	産 業 振 興 課 長	望 月 奈 緒 美
都 市 整 備 課 長	井 上 勝 彦	土 木 整 備 課 長	山 形 謙 一 郎
上 下 水 道 課 長	長 澤 康	教 育 総 務 課 長	小 林 恵
生 涯 学 習 課 長	井 上 誠		

5 職務のため出席した者の職氏名 (2名)

議会事務局長	依 田 正 紀
書 記	井 上 直 子

開会 午前 10時00分

○議長（堀内春美さん）

開会の前に、相互にあいさつを交わします。
起立願います。相互に礼。着席願います。

○議長（堀内春美さん）

令和6年第4回富士川町議会定例会4日目の本会議に、議員各位には、大変お忙しいところ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本会議及び委員会において、慎重にご審議をいただきました第4回定例会も、本日が最終日となります。引き続き、ご審議のほどよろしく願います。

ただいまの出席議員は、11名であります。

定足数に達しておりますので、これから、本日の会議を開きます。

○議長（堀内春美さん）

日程第1 諸般の報告

この際、議案の審議に先立ちまして、諸般の報告を行います。

議長から報告します。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりです。

なお、本日追加案件として、人事案件2件、意見書案1件、閉会中の継続調査申出書3件が、提案されています。

ご審議をよろしくお願いいたします。

また、3番依田誠司君及び11番鮫田洋平君から欠席する旨の届け出がありましたので、ご了承願います。

○議長（堀内春美さん）

日程第2 請願第3号 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正を求める意見書採択の請願書

についてを議題とします。

去る、12月6日の本会議において、ひとづくり常任委員会に付託しました請願第3号について、委員長の報告を求めます。

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

————— 委員会審査報告書朗読 —————

○議長（堀内春美さん）

以上で、ひとづくり常任委員会委員長の報告が終わりました。

宇田川委員長、その場で、しばらくお待ちください。

これから、請願第3号の請願審査報告について、質疑を行います。

質疑は、ありませんか。

(な し)

質疑なしと認めます。

以上をもって、請願第3号の請願審査報告について質疑を終わります。

宇田川委員長、ご苦労様でした。自席にお戻りください。

これから、請願第3号について討論を行います。

討論はありますか。

(な し)

討論なしと認めます。

以上をもって、請願第3号について討論を終わります。

これから、日程第2 請願第3号について採択します。

お諮りします。

請願第3号に対する請願審査報告は、採択とするものです。

請願審査報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なしと認めます。

したがって、請願第3号は委員会審査報告のとおりとすることに決定しました。

○議長（堀内春美さん）

日程第 3 議案第62号 富士川町職員給与条例の一部を改正する条例について

日程第 4 議案第63号 富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

日程第 5 議案第64号 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

日程第 6 議案第65号 富士川町家庭的保育事業等の設備及び運営の基準を定める条例の一部を改正する条例について

以上の4議案は、条例改正案件でありますので、一括して議題とします。

これから、議案第62号から第65号までについて、一括して討論を行います。

討論は、ありませんか。

9番 齊藤欽也君。

○9番議員（齊藤欽也君）

それでは議案第63号富士川町長等の給与及び旅費条例及び富士川町会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について反対討論を行いたいと思います。

その理由がですね、役場職員の業務怠慢により50万円の実質的損害を町に与えたにもかかわらず、この件について、町長は職員を監督する行政のトップという立場にありながら、何一つ責任を取っていません。またこの件についての町の対応も職員に対する分限委員会を

開いたのか、また処分をどのようにしたのかについて、議会及び町民に対して何一つ公表していません。少なくとも議会には報告すべきであると思います。しかしながら報告はありませんでした。きつい言葉になりますが、このような状況の中で、この期末手当を上げるなどという条例案を本議会に提案したことに正直に私は驚いております。

今議会10日の質疑の中で、この件についての分限委員会が開催され処分が下されたということを、私は財務課長の発言の中ではじめて知りました。分限委員会での処分が決まった時点で、望月町長は行政の監督責任者、トップとして議会に報告するとともに、また、自らも何らかの責任を取るべきであったと思いますが、一切そのようなことはありませんでした。行政のトップとして、自ら襟を正し、一罰百戒綱紀肅正のために給与の減額を自ら行うべきであったと思います。また、これまでの歴代町長たちは必ず議会に報告し、またその責任についても説明をしまいいりました。また、この件のみならず、昨年度はもう1件、会計上の処理を巡る処理を怠るような事案が発生しております。少なくともこの20年間、業務怠慢による業務上のミスは一度もありませんでした。このような通常ありえない、業務怠慢によるミスが連発して起こるのは、望月町長の日常の業務姿勢にあると思います。町長は、特別職であります。議員とは違い、常勤の特別職です。日常不断に役場に必要がない限り、公務の必要がない限り、いるべき立場にあります。トップがしっかりしないと、職員は大概がある。私はこのように思っております。今回の業務上のミス、あるいは連発した事態というのは、望月町長の姿勢にあると思います。今後は、町長職は重責であるということをご一度省み、真摯に町長職を務めてもらいたいと思います。

また議会においても、責任があるだろうと思っております。この件について、いろんな意見、大したことじゃないとか、公表してどうするんだと言ったような意見もありますが、そういう議会の姿勢が、町長と議会との緊張感、あるいは職員に対する緊張感、こういうものをないがしろにし、してきたものだろうと思っております。議会はこれまで分限委員会が開催されたのか、あるいはその結果どうなったのか、そうしたことを一切点検確認しようとしておりません。行政の監視チェック機能を果たそうともしない、そのように私は思います。このことが望月町長が緊張感なく、期末手当を上げるという条例を安易に出した一つの要因であると思っております。そういう意味で、議会にも責任があります。今一度繰り返しますが、くどいようですが、平たく言えば、今回の問題は、民間会社であれば、社長が社員を叱責する、それで済む話なんです。しかし、私達は町民の税金を預かり、それをもとに町政の運営をしております。ある意味、町民が社長であるわけです。従って、町長も当然、町民の負託に応える立場にあり、また何らかの問題があれば、自ら積極的にその責任を明らかにし、謝罪する、そういう姿勢が必要だろうと思っております。今回のこのような事態を安易に片付けることは、議会のチェック機能や、あるいは議会議員の存在その者さえも否定するようなことではないだろうかと思っております。誠実に行政運営、また議会をすることが今私達に求められています。議員の皆様にも大変厳しいこと言いました。連帯責任を取って私達も身を切る、そんな思いで今回の町長及び議員の期末手当引き上げの条例案を廃案すべきだと私は思っています。それがけじめであるだろうというふうに感じております。以上、以上のことから、本議案について私は反対します。そして最後に、本当のけじめはで

すね、単に廃案ではなく、町長自らがけじめをつけるということが必要だろうということをお願い添え、私の反対意見を終了したいと思います。以上です。

○議長（堀内春美さん）

原案に反対者する討論がありましたので、次に原案に賛成者の発言を許します。

発言はありませんか。

10番 青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

齊藤議員の63号に対する反対討論を伺いました。議員にも責任があるとそういったことは私もそうだと思います。ただ一つ伺いたいのは、62号におけるそのミスが起こった担当部署に対しての責任は問うておりません。職員の所得報酬に対する62号については了解をしていると、それが一点。それからもう一つ、私どもは全協でもって、担当部署から不適切な事務処理における説明と謝罪を受けております。以上、63号に対する反対討論の反対意見を述べ、原案賛成としたいと思います。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

次に原案に、他に討論はありますか。

次にですね原案に反対者の討論を許します。

2番 神田雅也君。

○2番議員（神田雅也君）

私も原案に反対をさせていただきたいと思います。というのは、というのは、先ほど齊藤欽也議員が言うようにやはり不誠実、不誠実なものをそのままの状態にしておいて、議員には何の報告もしないってということと、それによって議会への報告もなかったということもありながら、その町長としての責任をどういうふうにとるのかということのものも示さない中で、期末手当を上げていくというようなものに、は賛成できないなと思っておりますので、反対をさせていただきます。そしてまた、本会議3、3日目の質疑の部分におきましても、町長の齊藤議員の質疑に対しての町長の発言がいかんせん不誠実ではないのかと思っておりますので、それも付け加えて反対をさせていただきます。

○議長（堀内春美さん）

次に、原案に賛成者の発言を許します。

5番 小林和良君。

○5番議員（小林和良君）

それでは原案に賛成の立場から意見を述べさせていただきます。まずですね公務員としての公益の利益に奉仕する役割において、一般職と特別職、町長や議員の給与や待遇が乖離する、一方側を挙げて一方側はしないというですね、ことは社会的な公平性を損なう可能性があります。従って、公務員全体としての一貫性を保つため、特別職にも、人事院勧告を基礎とした待遇改善や適正化を適用すべきと考えます。人事院勧告というのは、マイナスの場合もあるんですね。今回はプラスですけど、この場合も一貫性が保たれているので、一般職と特別職も同様に下げられるわけです。そこに一貫性があると、それともう一つ、また議論の対象となっている条例改正案は、人事院勧告に基づく給与及び期末手当の改定であり、地方

公務員の待遇を適正化する目的で提出されています。一方、事務処理ミスは個別の問題であり給与改定の本質とは直接関係がありません。両者を関連付けることは妥当ではありません。処理ミスの問題と町長等の給料改定をそれぞれ独立して議論すべきです。従って反対論には反対、原案に賛成といたします。以上です。

○議長（堀内春美さん）

次に、原案に反対者の発言を許します。

（ な し ）

討論なしと認めます。

以上をもって議案第63号について討論を終わります。

討論がありましたので、始めに、議案第63号について採決します。

この採決は起立によって採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（ 起 立 8 名 ）

賛成多数です。着席願います。

したがって、議案第63号は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第62号、議案第64号、議案第65号について、一括して討論を行います。

討論はありませんか。

（ な し ）

討論なしと認めます。

以上をもって議案第62号、議案第64号、議案第65号について討論を終わります。

これから議案第62号、議案第64号、議案第65号について採決を行います。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（ 異議なし。の声 ）

異議なしと認めます。

したがって、議案第62号、議案第64号、議案第65号は原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第 7 議案第66号 令和6年度富士川町一般会計補正予算（第6号）

日程第 8 議案第67号 令和6年度富士川町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

日程第 9 議案第68号 令和6年度富士川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

日程第10 議案第69号 令和6年度富士川町介護保険特別会計補正予算（第2号）

日程第11 議案第70号 令和6年度富士川町水道事業会計補正予算（第2号）

日程第12 議案第71号 令和6年度富士川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）

日程第13 議案第72号 令和6年度富士川町下水道事業会計補正予算（第1号）

以上の7議案は、補正予算案件でありますので一括して審議を議題とします。

これから、議案66号から72号までについて一括して討論を行います。

討論はありませんか。

（ な し ）

討論なしと認めます。

以上をもって、議案第66号から72号までについて一括して採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なし、と認めます。

したがって、議案第66号から第72号までは原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第14 議案第73号 富士川町過疎地域持続的発展計画の変更について
を議題とします。

これから、議案第73号について討論を行います。

討論は、ありませんか。

(な し)

討論なしと、認めます。

以上をもって、議案第73号について、討論を終わります。

これから、日程第14 議案第73号について、採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なしと、認めます。

したがって、議案第73号は、原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第15 議案第74号 甲府市とのやまなし県央連携中枢都市圏形成に係る連携協約の
締結に関する協議について

を議題とします。

これから、議案第74号について、討論を行います。

討論は、ありませんか。

(な し)

討論なしと、認めます。

以上をもって、議案第74号について、討論を終わります。

これから、日程第10 議案第74号について、採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なしと、認めます。

したがって、議案第74号については、原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第16 議案第75号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う
山梨県市町村総合事務組合規約の変更について

日程第17 議案第76号 山梨県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更に伴う
財産処分について

以上の2議案は、組合事務変更案件でありますので一括して議題とします。

これから、議案第75号及び第76号について一括して、討論を行います。

討論は、ありませんか。

（ な し ）

討論なしと、認めます。

以上をもって、議案第75号及び第76号について、討論を終わります。

これから、日程第16 議案第75号及び議案第76号について一括して採決します。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

（ 異議なし。の声 ）

異議なしと、認めます。

したがって、議案第75号及び第76号は、原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第18 議案第77号 富士川町人権擁護委員候補者の推薦につき議員の意見を求める
ことについて

日程第19 議案第78号 富士川町人権擁護委員候補者の推薦につき議員の意見を求める
ことについて

以上の2議案は人事案件でありますので一括して議題とします。

町長から本案について、提案理由の説明を求めます。

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

————— 提案理由の朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

以上で、町長からの提案理由説明が終わりました。

この議題については、質疑と討論を省略したいと思います。

ご異議ありませんか。

（ 異議なし。の声 ）

異議なしと、認めます。

したがって、議案第77号及び第78号について一括して採決します。

お諮りします。

本案は原案のとおり適任とすることにご異議ありませんか。

（ 異議なし。の声 ）

異議なしと認めます。

したがって、議案第77号及び第78号は原案のとおり適任とすることに決定しました。

○議長（堀内春美さん）

日程第20 意見書案第3号 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正を求める意見書の提出について
を議題とします。

意見書案第3号の提出者に趣旨説明を求めます。

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

————— 意見書案朗読説明 —————

○議長（堀内春美さん）

以上で、宇田川委員長から意見書案第3号について趣旨説明が終わりました。

宇田川委員長その場でしばらくお待ちください。

これから意見書案第3号について質疑を行います。

質疑はありませんか。

12番 井上光三君。

○12番議員（井上光三君）

ちょっとお伺いしますが、提出先が衆議院議員、参議院議員ってあるんですよ。これ全員にということですか。衆議院議長、参議院議長ではなくて、全員ということであるんですか。

○議長（堀内春美さん）

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

ただいまの質疑にお答えさせていただきます。こちら側の提出先については、こちらでもちょっと確認させていただきます。

○議長（堀内春美さん）

10番 青柳光仁君。

○10番議員（青柳光仁君）

提出先ですね、今までのこう言ったあの請願の慣例で書いてると思いますけども出来ればこども家庭庁へも提出したらいかがかなと思いますんで。

○議長（堀内春美さん）

1番 宇田川朱恵さん。

○1番議員（宇田川朱恵さん）

ただいまの質疑というかのご提案に、はいお答えいたします。ちょっとこちらの方も再度、確認させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（堀内春美さん）

他に質疑はありませんか。

（ な し ）

質疑なしと、認めます。

以上をもって、意見書案第3号について質疑を終わります。

宇田川委員長、ご苦労さまでした自席にお戻りください。

これから、日程第20 意見書案第3号について討論を行います。

討論は、ありませんか。

(な し)

討論なしと、認めます。

以上をもって、意見書案第3号について討論を終わります。

これから、日程第20 意見書案第3号について採決します。

お諮りします。

本案は、原案を修正して決定することにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なしと、認めます。

したがって、意見書案第3号は原案のとおり可決されました。

○議長（堀内春美さん）

日程第21 ひとつづくり常任委員会の閉会中の継続調査申出書について

日程第22 まちづくり常任委員会の閉会中の継続調査申出書について

日程第23 議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について

以上の3議案は、閉会中の継続調査案でありますので、一括して議題とします。

各委員長から、会議規則第75条の規定により、お手元に配付しました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。

本案は、申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

(異議なし。の声)

異議なしと、認めます。

したがって、申出書のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

○議長（堀内春美さん）

以上をもちまして、本定例会の議事日程は、すべて終了しました。

条例改正案件、補正予算案件などの重要案件を熱心にご審議いただき、ここに無事に閉会できますことを、厚くお礼申し上げます。また、町長をはじめ町の執行部各位には、議案説明などに、ご協力いただきありがとうございました。

今年も残すところ2週間余りとなりました。何かとご多忙のことと存じますが、健康には十分ご留意され、希望に輝く新年をお迎えくださいますようご祈念申し上げ、令和6年第4回富士川町議会定例会を閉会します。

起立願います。相互に礼。ご苦労さまでした。

閉会 午前10時40分